

LA REVUO ORIENTA

1934

エスペラント研究

JARO 15 N-RO

M A J

1 9 3

JAPANA ESPERANTO-INSTITUT

APUD—PRETER小坂 狷 二 11
 學術語及記號の國際的劃一化の分野における見透し.....D R E Z E N 123
 Spiro de Printempo西村 正雄 126
 Al Kara Majstro城内 忠一郎 126
 接尾字 mal の機構に表れたる Z の無意識心理斷片小野田 幸雄 127
 日本詩歌のエス譯について (3).....松葉 菊延 129
 質 疑 應 答.....小坂 狷 二 132
 Printempo (自作エス譯俳句五つ).....多田 ッヤ 134
 むかしむかし (3).....編輯 子 135
 エス運動者のノート (2).....記 者 136
 人を訪ねて (2).....記 者 137
 第 22 回日本エス大會記.....編輯 部 141
 海外報道 }編輯 部 138
 内地報道 }

(表紙—青島友美)

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關
財團法人 日本エスペラント學會

東京市本郷區元町一の一三

—【電話小石川(85) 5415 番 — 振替口座東京11:25番】—

世界エス運動の中心機關萬國エスペラント協會(UEA)に對し我國を
 代表する本會に入會され我國のエス運動を援助せられよ

- 目 的** エスペラントの普及、研究、實用
- 事 業** (a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表
 (b) 雜誌及圖書の刊行及外國エス語書籍の取次
 (c) 講演會講習會の開催及後援
 (d) 其他本會の目的を達成するに必要な事業
- 會 費** (a) 普通維持員 年額2圓40錢 (b) 正維持員 年額3圓
 (c) 贊助維持員 年額5圓 (d) 特別維持員 年額10圓以上
 (e) 終身維持員 一時金100圓以上
- 維持員へは** La Revuo Orienta を無代配布する他當會發行新刊圖書の割引等をなす
 ことあり
- 本 會 の** 普通維持員を除く他の維持員はすべて萬國エスペラント協會(UEA)の
 普通會員 (simpla membro) となる
- 入 會 手 續** 住所 職業 姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい

會則及發行及取次内外圖書目錄要郵券二錢

役 員 名 簿 (五十音順)

理事 長 大石 和三郎	同 藤澤 親雄	理事(常任) 美野田 琢磨
理 事 秋 田 雨雀	同 醫 博 望月 周三郎	監 事 清 水 勝雄
同 井上 萬壽藏	同 柳 田 國男	同 鈴 木 正夫
同 中大教授 川原 次吉郎	同(常任) 上 野 孝男	同 堀 眞 道
同 文 博 黒 板 勝美	同(同) 大 井 學	顧問 法 博 穂 積 重遠
同 東 朝部長 土 岐 善磨	同(同) 小 坂 狷二	同 子 爵 三 島 章道
同 醫 博 西 成 甫	同(同) 三 石 五 六	

前號と共に維持員の方々
 へは 1934 年度年鑑を贈
 呈致しました。

告 財團法人日本エスペラント學會維持員仙臺支部
 が出來ました(内地報道参照)
 代表者は菅原慶一氏
 假事務所は仙臺市元寺小路 189

LA REVUO ORIENTA

Monata Organo de JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO, Hongoo-ku, Motomaçi I, TOKIO, Japanujo;
abono internacia—5 svis. frankoj.

APUD—PRETER

X-1 Prepoz.]

(4)

K. Ossaka.

I. APUD, *daŭrigo.*

He, kion vi tiel ĉirkaŭrigardas?—demandis **apud** ŝi virina voĉo raŭka kaj malagraba. (M 1)

えい、何をキヨロキヨロしてゐるのさ——と耳元でしわがれた、氣持の悪い女の聲。

Ĉiuj dormis krom la direktitisto **apud** sia direktilo. (FI 64)

舵機のそばに立つてゐる舵手の他は皆寝てゐた。

〔註〕 ĉe を用ひてもよい、ĉe を用ひた場合には『舵を操縦してゐる』と云ふ氣分。

Jam **apud** la pordo li vidis ankaŭ ĉapon, pendantan sur la muro. (FK 64)

戸口の處で壁にかけてある帽子を見た。

〔註〕 ĉe を用ひてよいが、その時には『戸口の處に達した際』の感じとなる。

Apud la muro inter la fenestroj staris kanapo, kovrita per nigra senŝeligita vaks-tolo, antaŭ la kanapo estis ronda tablo kaj **apud** ĝi de unu flanko seĝo tute ligna, de dua flanko—seĝo kun leda kuseno. (FK 125)

壁際窓の間に黒いはげちよろになつた蠟布をかけた長椅子があり、長椅子の前には丸い机があり、その机のそばには一方に木造りの椅子、他方に革張りの椅子。

Sub plej belegaj verdaj arboj **apud** blua lago staris de antikva tempo blanka marmora kastelo. (FI 32)

湖ぞひの美しい樹の下には昔ながらの白大理石の城があつた。

En tia v spera horo malgranda drinkejo **apud** la vojo, bele kaŝita post malgranda

ulno kun ĉarma ripoza benko ĉirkaŭ la dika trunko, montris sian afablan vizaĝon al la vojaĝanto.

丁度この様な夕刻のこと太い幹のまわりに牀几をしつらへた小さい楡のかげにかくれた道ばたの小さい居酒屋はいかにも旅人待ち顔をしてゐた。(BV 63)

ゆ：市街地では **apud** la strato は何か strato から離れてゐる様にきこえて變。依て『接する』意味の sur を用ひ：kafejo sur la strato Ginza.

Kaj irante de tie, mi renkontiĝis kun Fjotr Ivanoviĉ **apud** la budo, kie oni vendas kukojn. (Rz 13)

そこから出ましてな、あの菓子を賣つてゐる店のそばで P. I にばつたり出遇ひました。

Du junaj fraŭlinoj brodis **apud** la fenestro. (M 204)

二人の娘が窓ぎわで刺繍をしてゐた。

〔註〕 ĉe la fenestro 『(物の)窓の處に(置いてある)、(人が)窓に倚つて(外を眺めてゐる)』などの感じ。

Ĉe tio ĉi estas la sofo, sur kiu mi ĝuis senmezuran feliĉon **apud** sia kolo?

是は私が彼女の頸に寄り添ふて無限のうれしさを感じたあの長椅子。(Rt 93)

〔註〕 ĉe ŝia kolo としてもよい。

Apud la unua stacio, kie ni haltis, por preni akvon, mi ekzamenis precize, ĉu ĉio estas en ordo. (FK 14)

最初の給水をした停車驛で私は萬事オーライか仔細に點檢した。

〔註〕 是は *ĉe* を用ひる方がよい、*apud* では停車場を外れてゐる様な感がある（尤も給水柱が停車場外れにあつたのかも知れぬが）。

1 a. *Pli intima proksimeco estas montrata per „tuj apud“ aŭ „tute apud“*: 『すぐそばに』

tute apud ŝi staris malgranda kamen-tubisto. (F II 105)

彼女のすぐそばに煙突掃除夫が居た。

Oni plantis la floron en florpoton kaj starigis ĝin *ĉe* la fenestro *tute apud* lia lito. (F II 23)

その花を鉢に植えて彼の寢臺のすぐそばの窓に (*ĉe* la fenestro = sur la fenestro) 置いた。

Tuj apud la ĉambro de la gereĝoj sin trovis la ĉambroj de la reĝa kortego.

王女王の室のすぐわきに廷臣共の部屋々々があつた。(F K 223)

Rim. Oni povas uzi „*tuj*“ kaj „*tute*“ simile ankaŭ antaŭ aliaj prepozicioj:

tute antaŭ... すぐ前に (F I 113)

tuj sur la bordo de la maro すぐ海岸の上に (F I 52)

1 b. „*Unu apud alia*“ 『相並んで、相伍して』

Kaj la unuan fojon en la homa historio ni, membroj de la plej malsamaj popoloj, staras *unu apud alia*, ne kiel fremduloj ne kiel konkurantoj, sed kiel fratoj. (O V 362)

有史以來始めて色々雑多な國民たる吾々が他所人としてではなく、競争者としてでもなく、兄弟として並び立つたのであります。

La homoj, tiuj ĉi reĝoj de la tero, tiuj ĉi duon-dioj, en la daŭro de tutaj miljaroj vivis *unuj apud aliaj*, ne komprenante unuj la aliajn. (F K 271)

この地上の王者、此の半神たる人類は數萬歳のその間お互に了解せずして相伍してゐたのである。

En unu poto trovigis diantoj, elŝovigintaj ĉiuflanken, *trunkido apud trunkido*.

(F II 145)

一つの植木鉢に石竹がむらがり生えて四方へ亂れのびてゐた。

1 c. *Komparo* per *metado unu apud alia*. 相並べる意で比較の氣持が出る:

Komparante Volapükon kun Esperanto, oni povas diri, ke ĝi estas simpla fuŝaĵo *apud* ĉefverko.

V を E と比較すれば駄作と傑作だ、

Se lin kompari kun la nuna reĝo,

Li estis Apolono *ĉe* Satiro!

彼を先王と較べればアポロ神と半獸神と程のちがひであつた。(H 14)

〔註〕 *apud* を用ひては二綴となつて平仄が合はぬので *ĉe* を用ひたもの。

1 c. *Protekto* per *apudesto*:

Restu *apud* mi, dum mi kun li ekstere parolos. (B V 49)

外であの方とお話をしてゐる間(心細いから)私のそばについて居て頂戴。

この『そばに居てやる』意から『そばに在つて守護する、又は守護を受ける』氣持が出る:—

Kiu helpas min kontraŭ malbonuloj? kiu staras *apud* mi kontraŭ malbonuloj? (P s 95)

Mia patrino sidis ja *apud* ni, kaj tion mi rigardis kiel feliĉan defendon.

お母様がついてゐて下すつたので親船に乗つた氣でみられました。(F I 150)

Sed mi ĉiam estas *apud* Vi, Vi tenas min je la dekstra mano. (P s 73)

私はいつもあなた様(天帝)のお傍に居ります、あなた様は右手をひい下されるのです。

1 d. „*de apud*“ 『のそばから』(離れる):—

Kaj nur tiam, kiam la vilaĝa sonorilo magie eksonis noktomezon, ili sin levis *de apud* la tablo. Varmege ili preĝis antaŭ sia sankta figuro.

村の鐘が陰にこもつて夜半を報ずるとやつと彼等は机から離れて立ち上り、熱心に聖像に祈るのであつた。(F K 121)

(以下 128 頁へ續く)

學術語及記號の國際的

劃一化の分野における見透し

DREZEN

これはエスペラントロジーオの一方の雄 Drezen 氏のロシア語でかゝれた論文のエス譯で當誌編集部宛おくられたものでそのエス譯より重要でないと思はれる所を多少省略して自由譯したものである。

同氏は Sovetunia Komitato de Normigo の委員であり且その Komitato の中に屬する Terminologia kaj Simbola Komitato の prezidanto たる要職にある人である。此論文は専門學術上の術語撰定の問題と我エス語との關係及我エス語における teknikaj vortoj の採用問題について相當の示唆をふくむものであるからこゝに譯出した。

科學技藝上の概念、術語、記號 (Scienc-technikaj konceptoj, terminoj kaj simboloj) の劃一化 (normigo) を目的とするソヴェット聯邦格一化委員會の仕事——今日相當廣範圍に展げられた——同國におけるこの方面における各種言語間の劃一化の諸問題の解決を促すものである。

此の問題は今日同國に於てなされてゐるこの種の仕事が全世界における學術語の國際的劃一化單一化の問題の解決をどの程度に迄促進することができるかといふ興味ある問題を提供してくれてゐる。

これに關してこゝにごく概括的にこの仕事を紹介し今後の見透しを示したい。

科學學術語記號及概念の國際的單一化

現今の kapitalista socio における矛盾や各國語特有の性質がこういつた問題を解決するために大きな妨げである。

大戰後發展した naciiga tendenco (國民化的傾向) は各國語から國際的術語を放逐することになつて之に代つた術語よりは不正確なより不便なものになつたがとにかくより nacia なものにおきかへられた。一例をあげればドイツ語に於て “Automobil” の代りに “Kraftwagen”, “Telephon” の代りに “Fernsprecher”, “Aerodrom” の代りに “Flugplatz” が用ひられる様になつた如きである。

勿論學術上の記號の統一といふ事についてはまだそれほど困難ではない。殊に次の如き眞に國際的に用ひられてゐるものに於ては割合容易である。

1) 數字

2) $\sqrt{\quad}$ や \log の如く永く用ひられてゐるもの

3) 人名から來た記號:— Gauss から來た G や Amper からきた A の如き。

國際的分類と記號群

十進法に基く國際圖書分類や海上信號用符號や萬國電信記號は國際關係に於て夫々その専門上相當の程度に役立つてゐるその本質と使用方法からみてこれらの三種のものは同種類のもので之等は國際的に用ひられる記號群 (cifrado) とこれらを各國語に讀解すべき辭典とを具有してゐるからである。

國際的統一の見地からすればこういつた記號の應用使用は便利で經濟的である。同時にこういつた省略された國際的記號は各國語とも同一の定義が附されてをてつて各國語による意義の變遷を邪魔する bremso の役目をおびたものである。併しこれらは學術上の術語に對して適用することのできぬものである。

科學技術上の造語法

ある種の部門に於ては特殊の人々又は或國際的團體の發案や協力によつて新しい國際的接頭字接尾字が採用されこれらによつて組織だつた分類法と命名法がむすびつけられる。この最もよい例としては飽和炭化水素の表がある。これは 1892 年の國際化學者會議に於てきまつた命名法に準據したものである。同表に於ては $n=5$ から始まつて接頭字としてはギリシヤ語の數が用ひられてゐる。故に dodekano といへば $C_{12}H_{26}$, tetrakosano といへば $C_{24}H_{50}$ である。そしてこの表は無限にどこまでもつゞけてつくることができる。(實際さういつた化合物の有無に無關係に)。

n=	1	2	3	4	5	6	
飽和度							
$C_n H_{2n+2}$	metano	etano	propano	butano	pentano	heksano	} k t p.
$C_n H_{2n}^*$	meteno	eteno (元 etileno)	propeno	buteno	penteno	hekseno	
$C_n H_{2n-2}^{**}$		etino (元 acetileno)	propino	butino	pentino	heksino	
$C_n H_{2n-2}^{***}$		etadieno	propadieno	butadieno	pentadieno	heksadieno	

*) 二重結合一個、**) 三重結合一個、***) 二重結合二個

化學のみでなく動物學植物學に於ても一群の afiksoj が用ひられる。又 Internacia Elektroteknika Komisiono (IEC) に於て採用された mega (=10⁶), kilo (=10³), mili (=10⁻³), mikro (=10⁻⁶) 等も廣く用ひられてきた。

學術的分類と人爲的の afiksoj の導入に基づく之と同種の人爲的命名法は記號の如きものであるがこれは幾分科學的系統をもつた言語の形をおびたものと云うてよい。こういった人爲的要素の各國語への導入はそれら國語に於て在來の術語(例: unu miliona ono 百萬分の一)と國際的の術語(例: unu mikrono 一ミクロン)の共存併用を許す。

各國語における術語の Interna Koordino

學術方面における概念及術語の國際的統一の事業はその語の形に力點をおくものでなくしてむしろその意味内容に重點をおくのである。即ち各國語に於て意味の内部的統一を目指すものである。

1904年の國際電氣工學大會においてつくられた Internacia Elektroteknika Komisiono (IEC) はこの種の仕事に没頭してきた。IEC は術語の "ekstera koordino" (外部的整頓) に到達することについても努力してきた。この目的のため形の上で internacia であるが意味の上でそうでない術語に対しては或る制限を加へ各國語における意味を統一化することにつとめた。併し ICE の主たる仕事は "Interna koordino" (内部的整頓) である。

1881年以來電氣工學大會がこの學術上の單位、概念、術語の國際的統一についての先驅者であり經驗者である。

第六回世界大會に於てソヴェト國の委員 M. Chatelaine 教授は 1932 年 9 月 9 日の

"Ivestija CIK" 紙上に次の如く報告した。

『E. Wüster 博士提案の電氣工學術語(約4萬語)の國際化の問題については熱烈に議論された。報告者はこの問題の唯一の解決は國際語の解決なりと結論しエスペラントをこの目的に推奨した。此提案は出席者の多數によつて歓迎された。大會に於て國際的電氣工學辭典編纂の特別國際委員會が設けられ之に對し他の語の外にエス語をも採用する様試みるべきことが委囑された。而してこの國際的術語の導入のお蔭によつて他言語の文献の利用や各國學者の經驗の交換は一層容易となることと思ふ。』

専門家が國際語の見地からこの問題に興味をもつといふよりも何等かの國際的 terminoj-normigiloj (cifrado) の採用といふ見地からであることは明かである。術語について努力してゐる専門家はかゝる normigilo のない現今の状態に於ては大した結果はえられないもので結局各國語の専門學術語辭典の編纂に局限されるものと考へてゐる様である。

1933年5月マドリッドに Internacia Instituto de Intelekta Kooperado によつて召集された Komitato pri Ordigo de Scieneteknikaj Terminaroj では物理及化學上いろんな意味につかはれる術語についての問題を議論した。

而してその Komitato はたゞ國際的協會に於てこの問題を特別に研究する委員會を設立すべしとの希望決議をしたにすぎぬ。併しこの時フランスの代表 Cotton 及 Langevin 教授は上述の第六回電氣工學大會における Wüster 博士の提案と同様な提案を支持されたことは特筆すべき點である。

フランスの代表者によつてたてられたこの

問題は Komitato によつて principe に肯定され同 Komitato によつて採用された術語の定義は 에스ペラント語によつても又發表された (Bulteno de Internacia Scienca Asocio Esp-ista 1933. N. 1932 pg 11—12 参照)

國際的術語の基準としての英語及びラテン語

各國の専門家が國際的術語劃一化のため現今最も多く使はれてゐる英語又は往時の國際學術語であつたラテン語をすて人工語 에스ペラントを採用する理由について疑問をいだかる方もあらう。併しこの問題について英語を使用することが kapitalismo の立場からも socialismo の立場からも實現されぬものであることは明かである。

一國の國語を國際學術上の基準とすることはその國民に多大の特權を與へることである。だから中立的の國際語のみがその役目を果たすことができるのみだ。上述マドリッドでの會合の際ルーマニアの代表 Nikolau 氏がラテン語の復活を提唱したがイタリヤの代表が賛成しただけである。これはラテン語がルーマニア人やイタリヤ人にとつて有利だからである。

猶この事のみならずラテン語は死語であつて rigida である。その點で 에스語の如き人工語の方が遙かに現代に適應することができる。ラテン語は 에스語の如く語彙を増加し又 evoluigi さすことができぬ。

ドイツ、オーストリー、スイス、ハンガリー、ポーランド、ロシヤにおける醫學上の命名法においても一種のラテン語が用ひられ又米國、英國、スカンジナビヤ、和蘭、南亞に於て他のラテン語が用ひられてゐる。硫酸鐵は前者の grupo に於ては “Ferrum sulfuricum oxydulatum” であるし後者の grupo においては “Sulfas ferrosus crystalisatus” である。

Wüster 博士がその著 “Internacia Lingvonormigo en la tekniko” (1931) に於て “senakva etilena alkoholo” が七種のちがつた (同じラテン語で) 呼び方で呼ばれてゐることをのべてゐる。

國際的學術語の劃一化の試みと吾人の關係

各國語の術語の内部的 (意義内容による) 整頓についての仕事——これらの術語にゆるぎなき國際的人工的基準即ち學術上 概念の normigiloj—“etalonoj” を確立すること——を繼續しようとするこの傾向に對する吾人の關

係は如何なるものであるかといふに。

吾人は學術術語の國際化のあらゆる仕事に對して支持をおしまぬものである。勿論各國語及び各國文化及び一般大衆の利害を無視せぬ條件の下に。

もし “klasifiko de aparatoj de transformatoro tipo” の如き frazo があらゆる言語に於て形の上でそれら各國語の術語と相似であり同じ順序に又意味の上で全く一致するものが形成されるならば我々の興味と目的に十分そふことになる。又學術的術語 (形及び意義の兩方面から) の國際的統一の結果國際的基準、術語學的記號によつて決定され各國語の精確な定義が與へられるならば同様な事が云へる。而してかくなる時は例へばロシヤ語における “internaciaj” terminoj である。kaŭĉuko 及 rezino——ロシヤ語ではこの兩者は大體同じ意味に用ひられる——等については「國際的」の意味と「ロシヤ語獨特」の意味とについて明確な定義が與へられる様にならう。かゝることになれば例へばフランス語の術語 “gabarit” がポルトガル語に用ひられ (“gabari” の形で) 又ロシヤ語に於てより一層廣い意味に用ひられるならば (但し 1928 年の Pitman の辭典には無視されてゐるが) 現今の言語上の混亂は一層整へられることにならう。

かくてフランス人がこの術語の意味をもつと廣いものにしドイツ人イギリス人がこれを自國語固有の術語と併用する——(Lehre—Grenzlehre, gauge limit gauge) 様になるかもしれぬ。そして又そんなことが全く不必要な sinonimoj——上述飽和炭化水素の表中の——である eteno に對する etileno, etino に對する acetileno の如きものが消滅するたすけとならう。

國際語が一般的に使用さるゝ事が現在の全世界の社會狀勢に於てむづかしい事をみとめるが我々は國際的學術上の術語記號として人造國際語を使用しようとするあらゆる試みに對して衷心から之を支持したい。兎に角かゝる試みは從來の數ヶ國語による専門學術語辭典の編纂に比して遙かに進歩したものであることは云ふまでもない。

かゝる cifrado の活用とそれの進歩は各國語の學術上の術語の進歩發展に大きな影響を與へるものである。

ソヴェト聯邦の術語劃一化委員會(SNK)は術語、記號、概念の normigo の國際的の仕事に對して如何に役立つか

他國の同種の機關に比して SNK の特殊立場とそれの上級の學術的公的立法機關がソ聯の normiglaboro に對して確乎たる基礎を與へる。

技術方面におけるソ聯の政策は他國の技術に大きな影響を與へかけてゐる。全世界技術界に於てメートル制が他の制度を凌駕して第一位をしめた如きもこの方面におけるソ聯の政策のお蔭による事多大である。

又ソ聯に於ては技術のあらゆる分野に於て再建が行はれ從來の各國の經驗からその優越せるものがえらばれてゐることも事實である。ソ聯は各國から長所をとつて自分自身のものとするのできるのである。

猶又フランス語からポルトガル語にも用ひられた “gabarit” の例にみる如くソヴェットの科學技術の方面で採用された術語が後に他の諸國に於て國際的に用ひられることになるといふ事もありうることである。之を要するにソ聯の術語劃一化の仕事が外國の同事業に大いに寄與することも多いと思ふ。

この事を考へて SNK は

1. Internacia Elektroteknika Komisiono や Internacia Asocio por normigo やその他の團體の國際的協力を促進し當該術語表のロシア語の部分の整備と是正とによつて又將來に於ては二三の主要歐洲語の繙譯を加へその術語表を一層充實することによつて各國語の術語や記號の “interna senca koordinado” (内部的整頓) に盡くす。

2. 國際關係に於てあらゆる國際的基準 (圖書分類十進法、國際電氣工學委員會の記號等々) を使用し何等特別の必要なくして之が變更を試みるが如きことなく且常に現存基準の是正改良研究についての國際的協力を對して參加の用意をもつ。

3. 分類の基本的 normotabeloj 及び學術的 normoj をそれぞれの internacia praktiko において活用することにつとめる。〔完〕

〔131 頁より續く〕

場合には、その小節を四分音符二箇としないで、符點四分音符と八分休止符の如くにみる

この様に、奇數音節と偶數音節の配列のため自然に休止が出来るから、句讀點なしにかなり早く讀んだり話したりしても意味をとるのに差支へることはあまりない。

その代り、一小節即ち一呼吸中の二音節は一音節化の傾向を有し、二つの音節のうちのどちらかが無聲化する。

SPIRO DE PRINTEMPO

Masao Nišimura

En arbaro forlasita neĝo
ankaŭ en la valo dense plenas,
kun da verd' peniko firmamente
malaperas griza nub' lamente,
kaj tuj gvatas kvazaŭ ĝi divenas
la printempon de l' benata preĝo.

Ne nur sola estas la naturo
atendema ankaŭ la homaro,
sub la premo de la peza tempo.
„Baldaŭ venos al vi la printempo,
post la frosta nokto dolĉamara
diras eklumeto tra l' nebulo.

Kaj hodiaŭ kia helkoloro
jam ho de ĉielo al ĉielo
fluas super neĝa la montaro!
Sur zefiro venas de l' almaro
kiu iras tra la citadelo
kia milda dolĉa la odoro!

AL KARA MAJSTRO

Ĉuuiĉiroo Ŝirouĉi

Kiam en densa mallumo
Ni lacaj sencele hezitis,
Nin save vi, stelo gvidanta,
Al vojo elira invitis.

Kiam, en marĉo kaptite,
Rezinaj ni ĝuis ebrion,
Per mildaj okuloj solide
Vi al ni malfirmon riproĉis.

Kiam sur tero malorda
Ni solaj kulturaj kaj semas,
Memoro pri via ekzemplo
De ĉiuj forlogoj nin tenas.

Kiam sub nubo el pulvo
Disfalas nun pensoj pri paco,
Ni despli alttaksas la vian
Kaj penas por vera mondopaco.

Kiam en griza Transiro
Nur ĉio vantigas amara,
Nin tiras jen unu fruktonta:
Afero de l' lingvo homara.

接頭字 mal の機構に表れたる ザメンホフの無意識心理斷片

小野田幸雄

エスペラントが其れに先立つ人工語の、又全自然語の夢想だにならなかつた大膽にして且革命的な、又其の故にこそ簡易、完全、明確なりとの賞讃の聲と、より人工的なりとの非難の叫びとを其の背腹に受けた原因の最大なるものは實に接頭字 mal の導入である。かつては如何なる言語も企て及ばなかつた此の特種な形式の採用こそは、言語進化史上に於ける一特異點たると共に、人間心理變轉の指標であり、又ザメンホフの神精分析の鍵である。さばれ筆者は此處に、接頭字としての用法に於ける mal なる文字がザメンホフの創案なりと云ふのではない。吾々はフランス語に於て已に

maladresse (mallerteco)

malentente (malamikeco)

malhonnête (malhonesteco)

等の語を見る。然しながら此等はエス語に於けるが如く「正反對」の意としてではなく、語根 mal (malbona) として合成語的形態に於ける用法なのだ。筆者の云ふ、mal に重大意義ありとはエス語獨特の用法としての場合であり、又ザメンホフをして Fundamento de Esperanto 中にかゝる意義用法を規約せしめた無意識心理機制に關してである。

さしもに柔和謙讓にして臆病なる、精神分析學的に申せば神經症的なる彼——ザメンホフが神經症的なる事は、彼が内科醫を廢して眼科専門になるに至つた動機が明白に物語つてある。或る夕べ彼は金持の家から呼ばれて行つた。其處には一人の老婦人が床に就き傍には三人の醫者が待つてゐた。それから二日後に其の婦人は歸らぬ旅に立つた、が其の子供達は四人の醫者に多額の金を送つて來た。其の時ザメンホフは自分の分を受取る事を拒んでゐる。患者が死んだ上に剩へ金を貰ふ事が出来やうかとの理由に依て。然し此の時ザメンホフは其の無意識面に於て此の老婦人を

己の母代償と看做してゐた事には自身氣付かなかつた。母のイマーヂョを此の婦人に於て感じ、母へのリビードを此の婦人に一時纏綿せしめたのである。自分は我と我が母を

手に掛けたのだ、との罪障感に嘖まれてゐる彼がどうして謝禮などを手にする事が出来やう。

他の動機（意識的）は彼が少女の死の床に立會つた時の事である。熱病の爲子供の命を取られた母親は悲しみの餘り殆んど氣狂ひになつた。そして數ヶ月後にも未だ其の母の泣聲や溜息が耳を去らなかつたと云ふのである。此の場合も此の母を自分の母ロザリアと同一視してゐる。猶又死んだ少女を妹と感じたかも知れぬ。

兎も角もかゝる、醫者としては日常茶飯事の事件にかくまでも胸をいためる、即ち纏綿したリビードを自由に投出したり取り込んだり出来ず、それに依て専門をまでも變へると云ふは確かに健全な精神状態とは申せない。敢て神經症的なりと斷ずる所以である。この神經症的なる彼が勇敢にも大膽にも新しき意義に於ける mal を導入し、独自の形態を創案するに至つた心理の深き底にこそ、必ずや極めて強き何物かゞ存在せねばならぬ。

總て人間の無意識心理面にはアンビヴァレンツォ(愛憎相反併存感情)なるものが存する。(此の心理發生の機制に關しては事餘りに専門的になり本誌の趣旨に反する故さし控へるが) 同一人に對し同時に愛憎二元の感情を持つ事であり、此れが夢、云ひ誤り、言語の形式等に表れては正反對の形を採るに至る。此の事に關し精神分析學者フロイドは“Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse”中に次の如く述べてゐる。

「夢の仕事のこの奇怪な態度を裏書きする類似點を言語進化が惠んで呉れる。多數の言語學者は最古の言語では、例へば、強さ——弱さ、明るさ——暗さ、大——小といふやうは對偶は同一の語根(「大古語の對偶的意味」)に依つて表現されてゐると主張してゐる。例へば古代埃及でばケンといふ言

葉は語源上強と弱の兩義を有してみた。話の際そのやうな相反の言語を口に出す時は誤解を與へないやうに、語調とか身振によつて二つの區別を明かにした。文字に現す時は所謂限定語、即ちそれ單獨では發音の出来ない畫を附加したのである。ケンが強いといふ意味をとる時は、そのケンといふ文字のあとに直立してゐる小さい男の姿の畫を附加し、ケンが弱いといふ意味をとる時はそのあとへだらりとしやがんだ男の畫を書き加へた。(筆者註：此處に言語に於ける露骨な性的象徴を見る) 後代になつて同じ發音を有する大古語が少しく變形を受けてこの同一語に含まれてゐる對偶は初めて二つの方向に名稱を別けるやうになつたのである。かくて強弱兩義をあらはすケンから強い意味のケンと弱い意味のカンが發生して來た。この進化の最後の階段に達した大古語に限らず、非常に若い今日でもなほ使用されてゐる言語の中にもこのやうな古代の對偶の意味が遺物のやうに多分に保存されてゐる。私はこの點に關してアアベル(1884)の書物から二、三の記録を引用してみよう。

拉丁語にはこのやうな兩義の言葉は
altus (高い—深い) と sacer (神聖な—冒瀆な)

同一語根の變形の例として引用してみると
clamare—叫ぶ。clam—静か、だまつて、こつそり。

siccus—乾く。succus—液汁。
獨逸語にも同じ事は Stimme—聲。
stumm—黙せる。

轉化語を對照してみれば豊富な引證が湧いてくる。

英語の lock—閉すと獨逸語の Loch—孔や Lücke—間隙。

英語の cleave—裂くと獨逸語の kleben ひつつける。

英語の without は原語は有するといふ意味と有しないといふ兩義が含まれてゐたのが、現今では有しないといふ意味の方だけが使用されてゐる。併し、withdraw—撤回すると withhold—差抑へるのやうな合成語から with には附加するといふ意

味と奪ひとるといふ意味があつたことは明らかである。獨逸語の winder もこれと同じである。云々」(安田徳太郎氏譯より)

相反語がかゝる進化の路を経て發生し來つたものとするも、今日何人か此の事を容易に意識する事が出來やうか。此の時に當りザメンホフが mal なる接頭字の附加に依り相反語作製の一法を案出した事は、彼が無意識裡に於て人間精神の一層根原的なるもの、大古的なるものにふれた證據である。實に mal~なる形式は mal~の中に~を見んとするの意圖を含んでゐるのだ。malbona は「惡」の中に「善」を見んとする形式であり maljusta は「不正」の中に「正義」を見んとする形式であり malamikeco は「憎」の中に「愛」を見んとするの形式である。

斯くして一切の相反語を~と mal~との二形式に依て意識的に統一した彼ザメンホフこそは、極めて強きアンビヴァレンツォ所有者であつたと云ふ事が出来る。然らばかゝるアンビヴァレンツォは何處から由來したか。此の問題こそはエスペランティストにとるも精神分析家にとるも極めて重大であり、今此處に僅かの資料に依り云々する事は危険なる故しばらくさし控へる。完き研究はザメンホフの全著作及生涯の全行動の綿密な分析の結果に俟たねばならぬ。然したゞ此處に一言述べ得る事は、此れが彼の嬰兒期に於ける母親への強きアンビヴァレンツォの結果であらうとの推定である。(1934, 3, 26)

(122 頁より續く)

1 f. Akuzativo post „apud“.

Ĉar la almovcn en la poziccion apud io oni povas esprimi per „al io“, oni preskaŭ ne bezonas uzi „apud“ kun akuzativo.

La juna homo aliris al la kuzino, sidigis apud ŝi. (M 60)

Kompreneble kun verboj „sidiĝi, stariĝi, kuŝiĝi, k. s.“ oni ne bezonas uzi la akuzativon, ĉar la ago okazas en la pozicio mem:

Post kelkaj minutoj li revenis kaj sidigis apud sinjorino Anneto (F K 132; ankaŭ vd. M 49/-3, 10/8, 177/2, 205/-9; H 84/-10; Rt 124/5; ...)

Mi kuŝiĝas apud ŝi. (M 22 /1)

Georgo Dandin stariĝas apud la pordo de sia domo. (G D 39)

Li stariĝis ĝin en ŝia dormoĉambro tute apud ŝia lito. (E II 15/4)

日本詩歌のエス譯について

(3)

松 葉 菊 延

スバルウインが『私は短歌の形式を正確に翻譯する』と云ふのは、まことに結構な事だが、その『正確』と云ふのはどの程度なのであろうか？ 私はスバルウインのロシア語に譯した短歌を見たわけではなく、又かりに見たにしてもロシア語がわからないから何とも批評することは出来ないが『第一行に五字、第二行に七字、第三行にまた五字、これで短歌の上の句が終る』程度で『正確』に譯したと云へるだらうか？

Parisot と Cart が 1909 年に出した *Esperanta Versfarado kaj Rimaro* には、ヨーロッパの言語がそのリズム様式によつて三種類に分類してある。(これは、後に、小坂氏もその著『エスペラント作詩法講義』(1924)及び『エスペラント捷徑』(1928)で紹介された。)それによる、とエスペラントはドイツ語、イギリス語、イスパニヤ語、イタリア語、近代ギリシャ語等と同じリズム様式をもち、akcento 即ち特定音節の強勢が言語としての特性であるから、作詩法は、揚音の周期的配列によるべき事を示し、その結果、二音綴單位の詩脚(jambo 及び trokeo) に於ては、必ず一つ置き silabo が akcenta である様にせねばならぬと教へた。そして、そのために必要となる所謂補助揚音なるものは、あらゆる單綴語が平等に之を持ち得るかの如くに説き、次の例の如く、極めて軽い意味の單綴語及び短音節⁶⁾ にすら補助揚音を附すことを要求してゐる：

Kaj nenio en la mondo

Reciproke harmonias (Haml. III. 2.)

.....
La junecon—mi ploranta
Metis mem sur la altaron
De la devo ordonanta. (Mia penso)

.....
Nia diligenta Kolegaro
Inter la popoloj dividitaj. (Espero)

Parisot 及び Cart 以後の教科書は(例：小坂：『作詩法講義』及び『捷徑』；Stamatiadis：Nova Gramatika Libro, 1928 Ateno；Fruictier kaj Grenkamp-Kornfeld：Kompleta Gramatiko kaj Vortfarado de Esperanto, 1930 Jaslo) 何れもこの説を繼承したので、久しい間これがエスペラント作詩法の金科玉條であつた。尤も、その間には Balliman のフランスの詩格を参考にした新作詩法の提唱⁷⁾ 及び Grau Casas のカタロニヤ語の詩法をとり入れたと思はれる、揚音よりも音節數を基調とする詩法による譯詩⁸⁾ 及び原作詩⁹⁾ があらはれたがエスペラント本來の語法にあはなぬものと見做されたためか、一般に aprobi されるに至らなかつた様である。

しかるに Parisot kaj Cart の詩法が、どうもエスペラントとして物足りない様に感じられてきて、1928 年、Hohlov はこの“horlogé-ritma mond”¹⁰⁾ に對する“Plendo”¹¹⁾ を發表した。

その後 Kalocsay が Pri la Esperanta ritmo¹¹⁾ なる論文に於て二音綴詩脚の場合の補助揚音は、長音節のみがとり得るもので短音節に於けるそれは teoria akcento なりとし、skando の際は akcenti されても deklamo

6) re-ko-ni の如く母音で終る音節。これに對し dis-sen-das の如く二つ以上の子音を伴ふものを長音節と云ふ。

7) J. Balliman: Tradukoj de Francaj Poezioj kun Teorio de Nova Versfarado, ? Paris.

8) Kataluna Anatologio, 1925 Ba:celona.

9) J. Gran Casas: Amaj poemoj, 1924 Barcelona.

10) N. Hohlov: La Tajdo. Pĝ. 30, 1928 Horrem bei Köln.

11) Kalocsay: Lingvo Stilo Formo. Pĝ. 122, 1931 Budapest.

に際しては *senakcenta* なるべき事を力説した。

Kalocsay の説は、その後 Waringhien の詳細な *Observo*¹²⁾ によつて、一層の *graveco* をもつに至つた。

Waringhien の統計的研究によれば、エスペラントは、Parisot 及び Cart の分類に於ける位置に變りはないが、同じリズム様式をもつイギリス語、ドイツ語、ポーランド語等と全般的に同一視することは出来ない、むしろこれらの言語系統と、フランス語、イタリア語系統との中間に位するものであることが證明せられた。してみれば、その作詩法も亦これら二つの言語系統の中間を行かざるを得ぬことになる。これはつまり、エスペラントのリズム組織が、より明瞭にせられた結果に外ならない。

日本詩歌の形式の特徴は、音節數を基調とし、長短詩句（即ち音節群の多寡）の規則的配列によるものなることは古來の定説である故に小坂氏は、日本語をフランス語と共に Parisot 及び Cart の分類の第三に屬せしめ、その性質として、*akcento* の有無も母音の長短も共に著しい効果をもたらさないものであるから、リズムは *silaboj* を *nombre kalkul* することに依つて生ずるとされてゐる。然らば、三十一音節の短歌を譯して、五・七・五・七・七の五行三十一音節詩となすことは、スパルウインの信ずる如く『正確』な方法である筈である。

成程これは一つの方法である。日本詩歌の唯一つの『約束』である。 *fiksnombreco* は、完全にこれによつて再現出来る。

しかし、この方法は共通のリズム組織を有するフランス語への翻譯に應用されたら相當の効果をあげるであらうが、リズムの様式を全然異にするエスペラントへの翻譯の場合はどうだらうか？

『一般に強弱變化の著しくあらはれるやうな言語では文のリズム分節を規定するものが強勢及び音休止であるといふのが普通であつて、各音節の音時量、即ち長さは、まるで差

別がないといふ次第ではないが、寧ろ看過し得べき程度のもので』¹³⁾ あり、『これと反對に高低變化が著しくあらはれ強弱變化が注意を惹かないやうな言語について見ると、それぞれ音節の音時量の區別、即ち長短關係は甚だ大切な意味を持つてくるもので』¹³⁾ あるからエスペラント譯を同音節にしても、音節數による効果、即ち日本語的效果よりも揚音による効果、即ちエスペラント的效果の方がずつと強く感じられて *formo* の *reprodukt* は單に視覺を満足せしむるに止まる。これはエスペラント譯の短歌、ことにエスペラント原作の所謂『短歌型』の詩に於いて、詩脚をいろいろに置換へてみることにより明瞭に諒解出来る。

よつて、音節數のみを再現し、詩脚の選擇を考慮に入れぬ日本詩のエスペラント譯は視覺的效果のみをねらつた一面的の *solvo* であつて、聽覺を満足せしむるものでない。しかも *muziko per vortoj* なる *poemo* は元來視覺よりもむしろ聽覺に訴へんとするものである。この點に關しては、最も *komprenema* であり且つ *nervoza* である Kalocsay すらが、短歌長歌を譯して *jambo* に *trokeo* を *arbitre* に交へてゐる事は彼の日本詩歌についての知識が辛うじてその音數配置にのみ止まることを示すものでまことに遺憾である。

尤も彼の譯はいづれ他のヨーロッパ語譯よりの重譯であらうし、彼に日本語の知識があるとも思はれぬから、この點は止むを得ないであらう。

然らば、日本詩歌は如何なる *pieđoj* を以つて譯されるべきであらうか？如何にすれば視覺と同時に聽覺をも満足せしむる譯が得られるであらうか？それには先づ日本語及び日本詩歌のリズム様式を注意して *observi* せねばならぬ。

どの國語にもそれぞれ長い年月の間に生れた獨特の性質、習慣があつて、その國語で子守歌から仕込まれた者にとつては自然に憶へられる様になつてゐるが、外國人、ことに獨學でその國語を研究してゐる者にとつてはな

12) Waringhien: "Skizo de la Esperanta Metriko" en Parnasa Gvidlibro, 1932, Budapeŝt.

13) 佐久間鼎: リズムと人生 P. 188

かなかむづかしい。

我々が日常呼んでゐる外國の地名人名は、どれもその本國での呼び方とはまるで違ふであらうが、我々の悉くが語學者でない以上致し方がない。知らない外國語に出會ふ毎に我々は勝手に自國語流或は自分の多少知つてゐる他の外國語流の読み方で間に合しておく。

我々が『新京』『遼陽』をシンキョー、リョーヨーと呼び、英米人が『箱根』『三島』をヘイヨン、マイシヤイマと呼ぶのは中でも甚しい方だ。

同じ綴でも國語によつて習慣的に読み方がちがふ。ハンガリヤでは s が š に發音されるので 에스ペラントを *Eszperanto* と書く。ところが、ポーランド語では sz では š の音をあらはすと云ふ。Hugo と書いても、ドイツ人の名前ならフーゴーであるが、これがフランス人の場合にはユーゴーだ。明治二十年代の川柳に『 Chopin とは俺のことかとシヨパンと云ひ』と云ふのがある相だが現在でも *Chopin* を Chopin とよむ者は少なくないだらう。要するに綴りだけ見ても發音は出来ない。發音はその國語が『解る』者にとつてのみ可能である。ローマ字の固有發音なんてありやしない。それでも sh は shi, ch は chi でなくてほと力むへボン式ローマ字論者にも困つたものだ。

イギリス語やアイルランド語が、綴りとはまるでちがつた發音をする様に、日本語もローマ字綴りでは發音が示されない。(この點はローマ字でもカナでも同じこと)

然らば日本語の獨特の性質は何であらうか？日本語は 에스ペラントと同じ様に母音が音節を形成する。(但し『ん』は 에스ペラントにない音だから別) 然しその發音法は必ずしも同一でない。Amerika は 에스ペラント読みなら A-me-ri-ka で明かに四音節であるが日本語として發音する際には二音節づゝに句切つて、Ame-ri-ka の如くに讀む。四音節と云ふのは日本語としては *teoria silabado* で、實際は *duspira* に發音されるのが普通である。これが日本語のもつ著しい性質で、きまつて頭から二音節づゝを一まとめにして發音するため、呼吸の數(或は句切りの數)が音節

の數の約半分になる。これは、通常の朗讀、會話の場合もそうであるが、韻文をよむ場合、即ちリズムを意識して朗讀或は吟詠する場合ことにそうである。この性質を少し詳細にしらべてみやう。

I. 單音節の助辭：が、は、の、に、へ、と、も、よ等は其の前にくる本辭が奇數音節の場合、その最後の音節と共に一呼吸を形成し、本辭が偶數音節の場合には獨立して一呼吸となる。例：||ここ|ろも||、||山|が||、||さく|らの|みき|に||。

II. 組立語、即ち二つ以上の單語或は單語と *afiksoj* との合成語の場合は、語のつなぎ目が呼吸の切れめとなる。故に『おたまじやくし』は ||おた|ま|じやく|し|| であつて、||おた|ま|じやく|し|| ではない。同様に、『ところどころ』も、||とこ|ろ|ど|こ|ろ|| であつて、||とこ|ろど|こ|ろ|| ではない。但し、組立語の *elementoj* の一つが單音節の場合には、その音節は獨立性をもたない。例：日當り(日+當り) = ||ひあ|たり||、出船(出+船) = ||でふ|ね||、油繪(油+繪) = ||あぶ|らゑ||。

上の様にすべての語句を頭から二音節一呼吸に發音するので、單音節の名詞が語句のまつさきに来る時も、これをさながら次の語の一部の如く發音する傾向を見る。例：||邊に|こそ|死な|め||、||名こ|そ|流|れて||

斯の如き日本語の發音法は二拍子の歌曲に比較され得ると思ふ。即ち總ての小節が二箇の四分音符(八分音符としても同じだが假り四分音符としておく)を含みその各々に單語の各音節があてはまる。そして各小節が呼吸即ち發音の單位となる。獨立に一呼吸を形成する音符は、それを含む小節の第二の四分音符が四分休止符に置き換へられたと見ればよい。尤も、この獨立音節が嚴密に四分音符相當の長さを有するか否かは機械的實驗によらねばわからないが、實際、場合によつては多少長いめに發音されることがある様だ。この

(以下 126 頁へ續く)

質 疑 應 答

Lingvaj Respondoj

K. Ossaka

★*mi havas multe da ili* は *logika* でないと思ふ。*Mi havas multon da ili* とすべきではないですか。習慣法はエスペラントには行はるべきでないと思ひます。又 *Mi havas centon da pomoj* と云ひますが、*Mi havas centen* とは云はぬでせう。御教示を。〔大連川上氏〕

〔答〕 勿論 *multon da...* と云つてよろしい、〔*Ekzercaro* § 21 (§ 32)〕、然しむしろ *multon da* よりも *multe da* の方が一般に好んで使はれる。それには理由がある、理由があるから *Esp.* としては使つて差支ないと云ふことになる。

言語が生きた言語として活用されるためには重くるしい形式は自然と避けられ、軽便な形が好まれる。是は言語を支配する自然法則で、人造国際語と雖も人間が使ふのであるから此の法則に反しては決して一般に使はれるに至らない。*Esp.* に於て彼の助辭なるものが重くるしい語尾をつけず單純な形になつてゐるのは助辭は其の性質上繰りかへされる詞であるので一定の語尾を與へては重くるしく、聞きづらくなるためである。例へば前置詞に *-er* なる語尾を與へたりとせんか *Mi parolis aler li apuder la tablo ener la ĉambro deer la patro* などとまことにしつこくなる。副詞の中で屢々日常用ひられる(即ち繰り返へされる)副詞(依て助辭的のもの)を副詞的助辭とし本辭の副詞と區別したのもこのためである。(例へば *Hodie matene anke ple rapide li iris* は *Hodiaŭ matene ankaŭ pli rapide* より……調子がわるい)。

又 *Esp.* に於ける數詞は基數詞の十二語(*unu* より *mil* まで) だけであつて是は助辭としてある、即ち語尾なしであるのは當然である。基數以外の數量觀念はその語數を限られないから助辭を用ひず本辭が用ひられるのも當然のことである。例へば

◁ *amaso da homoj* 一群の人

du torentoj da larmoj 二タ流れの涙

tri dekduoj da kuleroj 匙三ダース

此等は名詞であるから *amaso da homoj* と云へば『人が一群』、*amasoj da homoj* と云へば『人がいく群れか(群が複數)』と云ふ數の意味が生じ、従つて『單、複數』の區別をつけることが必要である(*dekduo* 一ダース、*dekduoj* 數ダース、*botelo da biero*, *tri boteloj da bieroj* など)。然るに

multo da homoj 人が多勢

kelko da ŝtonoj 石若干

malmulto da akvo 水が少し

などは所謂『不定數』で前例と異り、單、複數の觀念の區別を必要としない、即ち數詞にも準ずべき助辭(不定數を示す)の意味合のものである(日常屢々用ひられる詞)。

然るに *Esp.* の品詞中最も軽い、助辭に近いものは副詞(語尾としても *o*, *a*, *i* の如きはつきりした音でない *-e* が與へられてゐる)である。依て此の最も軽い辭助的本辭である副詞(語尾 *-e*)を流用して數詞(助辭)に準ずべき不定數を示すのに用ひる:

multe da homoj

kelke da ŝtonoj

malmulte da akvo

此の形と前掲の *-o* 形式のものとを比べれば *-o* と *-e* なる響の相異だけでも *-o* 形式の方が重くるしく感じられるであらう) 此の事實など如何に *Zam.* 博士が *delikataj, subtilaj sentoj* を有して居たか、又何故に机上で作られた *Ido, Novial* 等が遂に世に行はれ得ぬか(わかる)。依て人は不定數の場合には重い *-o* 形式をあまり用ひず、軽い *-e* を自然好んで用ひることとなる。然るに *cento da pomoj* は『林檎一百(そく)』と云ふ定數を示すのである(依て『三そく』ならば *tri centoj* と複數形となさねばならぬ) から之を *cente da pomoj* とすることは出来ない、*cente* では一百、數百と云ふ様な數の觀念がない、是

れ *kelke da* が用ひられ、*cente da* が用ひられ得ざる理由である。

{ *cento da pomoj* 林檎一百
centoj da pomoj 林檎數百
kelke da pomoj 林檎いくつか

〔注意〕(1) なほ次の二句は異なる

(a) *cent pomoj*

(b) *cento da pomoj*

(a) は *kvin pomoj*, *dekkvar pomoj* などと同様單なる基数詞を用ひた、即ち定數を示したもので『林檎百個』。(b) は *cento* なる『單數』名詞を用ひたので『一』なる觀念が含まれる。即ち *dekduo* —『ダース』と同様“*cento*”なる一つの單位(日本の『そく』に當る)を用ひ、之を基として數へる場合。

botelo da biero ビール『一』本

du boteloj da biero ビール『二』本

cento da pomoj 林檎『一』*cento*

du centoj da pomoj 林檎『二』*centoj*

依て數名詞は *dekduo* 『一』ダース、*cento* 『一』百(そく)、*milo* 『一』千(之に當る日本語の單位なし)など日常用ひる單位を示すものに用ひるので、*dektrio*, *dekkvaro* など云ふ様な單位として用ひぬ勝手な數名詞は用ひられない。かゝる場合には *dek tri*, *dek kvar* と普通の數詞を用ふべきである。

〔注意〕(2) *Mi havas centon da pomoj* に於ては *cento* は動詞 *havas* の目的語であるから、『全文法』第2條により目的格の語尾 *-n* をつけねばならぬ(一百を持つてゐる)。此の場合 *pomoj* は前置詞 *da* の後にある、即ち *havas* の直接目的語ではなく、前置詞 *da* の補語(林檎『の數』一百を持つてゐる)であるから全文法第8條により *-n* をつけてはならない。然るに不定數を示す助辭的本辭 *kelke* は名詞ではないから *-n* はつけぬ。Fundamento によれば直接目的語としての語尾 *-n* は名詞(全文法第2條)、形容詞(第3條)、代名詞(第5條)につけるが、副詞にはつけるとないからつけてはならぬわけである。(『移動の方向を示す *-n*』は全文法第13條により副詞にもつけられる)。

Mi havas

{ *dek du kulerojn* 匙を十二
dekduon da kuleroj 匙を一打
kelke da kuleroj 匙をいくつか

〔注意〕(3) 數は物あつての數であるから助辭たる數詞は名詞に直接つけられる：*dek du kuleroj*。然るに本辭は單に並べたのでは關係がつかかねる。何か前置詞を介在せしめる必要がある。此の如き『數關係』の場合のために前置詞 *da* が作られてあるのである。

boteloj da biero ビール數本

dekduo da kuleroj 匙一ダース

是は丁度 *branço de arbo*, *homo el Japanujo* *birdo en kaĝo* など二品詞の關係を前置詞が介在して示すのと同一致、不定數の場合も兎に角形は本辭で、眞の助辭ではないから前置詞 *da* を介在させないとつきがわるい。即ち

malmulte da biero ビール少し

kelke da kuleroj 匙數本

比較：—

Li legis multe librojn.

本を大に讀んでゐる

Li legis multe da libroj.

本を(何冊も)澤山讀んでゐる

〔注意〕(4) *amaso da...* 『一』群、*dekduo da...* 『一』ダース、*botelo da...* 『一』本などが『一』を示すのに倣つて次の如き感じの上の區別が出る〔*Ekzercaro* § 21 (§ 32)〕:

Multaj birdoj flugas en la aŭtuno en pli varmajn landojn.

秋になると暖國へ飛んで行く鳥は多い。(と多くの鳥を個々に考へた場合)

Sur la arbo sin trovis multe (aŭ multo) da birdoj.

その樹に鳥が澤山(と *amaso da* などに倣ひ鳥がそこに一とかたまりに居る感じ)とまつてゐる。

Kelkaj homoj sentas sin la plej feliĉaj, kiam ili vidas la suferojn de siaj najbaroj.

隣人の苦しむのを見ると自分が最も幸福だと感ずる人がある(一とかたまりの人を指すのではなく人のなかにはさう云ふ人もいくらかあると個々に考ふ)

En la ĉambro sidis nur kelke da homoj.
 部屋の中に人が(何人かそこに居る人を一

とかたまりに考ふ)居つた。

〔注意〕(5) 人間の言葉は一定の法則のみで律することは出来ぬし、又言葉のあらゆる場合の用法を法則にすることは出来ぬ。一般の使用は結局『一般の人が云ふ様に云ふ』のが常道である。Esp. と雖も結局は一般今日の Esperantistoj が云ふが如くに吾人も Esperanto を用ひねばならない。勿論他の自然國語の如く「習慣」であるからと云つて論理を屈に合はぬ云ひ方を『強ひられる』事はないのであるが、理由が立つ事ならば一般の使用する『習慣』に従はねばならない。英語では Morningly he takes a walk とは云はぬが Esp. では En la mateno... の代りに Matene li promenas と云つてよい。是は matene で充分 en la mateno の意味を表はして他に誤解を起させぬからである。然るに En la ĉambro... を Ĉambre li sidis とは普通云は

ぬ『習慣』である。と云ふのは場所の場合には en la ĉambro だか apud la ĉambro だか en la ĉambro maniero だかわかりにくい、即ち意味を判じ難いと云ふ『理由』があるからである。Zamenhof は『全文法』(Fundamento の一部分) 十六ヶ條に依て Esp. の一般的法則化し得る法則を示したが、法則化し得ぬ語の運用法は Ekzercaro (Fundamento の一部分) で示した。即ち Fund. の一部たる Ekzercaro は Z. が吾人に示した Esp. としての『習慣』法則とも云ふべきもので、此の一篇だけは吾人が反覆弄味すべき模範用例で、又之を研究すれば質問の數々は氷解すべく、Esp. 語の語法の全般と妙味とを體得することが出来る。(例へば tiu が代名詞として語尾 -i, -n をとる事や、本質疑の如きは全文法には書いてないが、Ekzercaro を讀めばわかることである。)

PRINTEMPO

originale verkitaĵ kaj esp. tradukitaĵ de Cuja Tada

Printemp'vaporo!

Min ĉirkaŭas en ĝarden'

herba odoro.

かげろふや

草の香満つる

庭こみち

Burĝon' persika,

malvarmeta sur mia vang'

estas malseka.

ひいやりと

桃のつほみの

しめりかな

Ĉe l' kaban-sojlo

ne ŝajno ĉeesti hom' ;

Globoj de ajlo.

家内^ヌは

るすのやうなり

ねぎの花

Saliko pendas;

Sin krepuska, profunda

ĉiel' etendas.

たそがるる

空の深みや

青柳

Dolĉa espero

min luladas ne kaŭza;

Printemp-vespero.

何ことを

待つともなしに

春の夕

むかしむかし

編輯子



明治時代から英語の私塾の双璧として多数知名の人士を世におくりだした學校に齋藤秀三郎氏の正則英語學校と磯部彌一郎氏の國民英學會とがある。

この英語の總本山とも云ふべき國民英學會の創立者であり會長(校長)であつた磯部彌一郎氏が我國エス運動の初期(明治39年頃)における熱心なエス語黨の一人であつたことは餘り世にしられてをらぬ。

同氏は日本エスペラント協會創立の當初からの會員で(會員番號第九番)あつたのみならず評議員として會の要務に参畫されてゐた。

我國最初の公開講習會とも云ふべき明治39年7月30日から三週間 Gauntlett 氏の gvido の下に開かれた講習會が百九十名の参加者を得て盛會を極めたがその會場といふのは上記國民英學會の専修學校であつた。

我國最初の普及講演會である同年8月13日(神田の帝國教育會に於て)の講演會では同氏は他の講演者と共に熱辯をふるつてゐる。當時の新聞の記事によれば

「……磯部彌一郎氏は世界語に對する英國語學者の評と題し初めにガントレット氏の専修學校に開きし夏期講習會の盛況をのべそれより英國リヴァプール大學聲音學教授ロイド博士の説を紹介して曰く……最後に磯部氏は願はくば我國に於ても補助語として今後尙一層の研究をつみ來る四十五年の大博覽會の際には東京にエス協會萬國大會を開かむことを望むと結び云々」と記されてゐる。

同年9月17日のエスペラント語學校の開校式にも同氏は一場の演説をされてゐるのみならず同校第一回卒業式(12月16日)は同氏の主宰する國民英學會に於て舉行されてゐる等の事實は同氏のエス語熱を雄辯に物語つてゐる。

その後我國エス界には暗黒時代が訪れた。そして星移り月變り幾年かの歳月が夢の様にながれた。世界大戰後の國際協調の氣運は我

國のエス語運動に大きな拍車を加へた。全国各地に普及講演會が開かれ講習會が催される様になつた。大正十一十二年頃には我邦エス運動は第二の興隆期の頂點にあつた。關東大震災を契機としてエス語運動は東京より地方へと發展した。

その頃(大正13年)沼津で開かれた講習會に出席されて熱心に勉強されてゐた婦人に本間登龜さんといふ方があつた。これこそ磯部彌一郎氏の長女登龜さんである。(本間氏は縁家光の姓。)

本間夫人は別に嚴父彌一郎氏から直接エスペラントについてお聞きになつたことはなかつたそうであるが明治卅九年頃のエス運動華かなりし時代お父さんや周囲の人々の口にする「エスペラント」といふ言葉を子供心に胸にきざんでをられたのがたまたま沼津市におられた時エス語の講習のあるのを知つて参加されたものである。お父さんが十數年前まかれた種がこの時になつて芽をだしたのである。夫人には光子さん(後、澤村家に嫁し亡くなられた)と千鶴子さん(後、林家に嫁入らる)の二人のお妹さんがあつた。いづれも姉さんの感化をうけてエス語を學習される様になつた。クララ會の森田松榮女史(後の佐々城夫人)の指導をうけてエス語運動にも参加される様になり往年のお父さんの志をつがれる様になつた。本間、林兩夫人は今もエス語研究を續けられてゐる。

これとは別に長男包光(本間夫人の弟さん)氏は既に大正10年頃エス語に熱中され講習にも参加されたそうであるが同12年歿せられたのは返す返すも残念なことである。

我國英語界の巨星磯部彌一郎氏が我等の同志であつたことと四人のお子さんがエス語に熱中されたといふことは特筆大書すべきことである。

〔上掲寫眞は明治34年の磯部氏〕

★ Gvidlibroj

2

エ
ス
運
動
者
の
ノ
ー
ト
よ
り

9. München (1910).
10. Rostock (1910).
11. Worms am Rhein (1910).
12. Wörishofen (1910) 4 p.
13. Augsburg (1910) 48 p.
14. Lübeck (1911?) 54 p.
15. Gvidlibro tra Bad Reichenhall (1911)
16+16 p.
16. Dreseno kaj la Esperantistaro.
17. Gvidlibro tra Magdeburg 14 p.
18. Bad Godesberg (1911) 4 p.
19. Breslau (1913) 24 p.
20. La Restadeja urbo Kassel 16 p.
21. Gvidlibro tra Stuttgart (1913) 52 p.
22. Germanujo Köln (1927) 16 p.
23. Köln apud la Rejno (1927) 16 p.
24. Wiesbaden (1927) 52 p.
25. Bildaro de Gotha 37 p.
26. Gvidlibro tra la historia kaj belega
parkurbo Potsdam (1928) 51 p.
27. Wiesbaden (1930?) 16 p.
28. Vogtlando (1923) 24 p.
29. La Aerkuraĉloko Weisser Hirsche (1808)
52 p.
- ★イタリー
1. Gvidlibro tra Trentino (1921?) 278 p.
2. Pompei (1913) 36 p.
3. Milano kaj Lagoj de Lombardio (1931)
112 p.
4. Tra la Franciska urbo Assisi (1932)
35 p.
5. Ilustrita Gvidlibreto de la Banurbo
Rimini (1915) 40 p.
6. Terni (1923) 8 p.
7. Gvidlibro de l' turistoj por fremduloj
en Italujo (1904) 14+2 p.
- ★ドイツ
1. Aachen (1909).
2. Ansbach (1911).
3. Berlin (1911)
12 p.
4. Bromberg
(1909).
5. Düsseldorf
(1909).
6. Hanovro
(1910).
7. Königsberg
(1909).
8. Leipzig (1909)•
8. Gvidlibro de l' urbo Ravenna 56 p.
- ★イスパニヤ
1. Hispanujo (1926) 96 p.
2. Barcelono (1909) 24 p.
3. Barcelona (1909) 16 p.
4. „ (1909) 4 p.
5. „ (1909) 5 p.
6. Manresa (1923) 15 p.
7. Gvidlibro de Ĝibraltaro (1909) 38 p.
8. Pri Hispanujo kaj ĝiaj poplkantoj (1926)
52 p.
9. Carcagente (1909).
10. Rememoro de Burgos (1908) 14 p.
11. Bilbao (1909) 3 p.
12. Cordoba (1910)
- ★オランダ
1. Hago (1920) 56 p.
2. Rotterdam 24 p.
3. Rotterdam 9 p.
4. St-Gravenhage (1910) 8 p.
- ★ダンチツヒ
1. *Statjura pozicio & ekonomia signifo de
de Danzig (1927) 32 p.
- ★ベルギー
1. Antverpeno (1928) 32 p.
2. Antverpeno kaj la sepa universala kon-
greso de Esp. 32 p.
3. Spa (1912).
4. Gvidlibreto por turistoj en Bruĝo (1910)
32 p.
5. Gvidlibro pri Verviers (1926) 16 p.
6. Bruselo (1900).
- ★デンマーク
1. Kopenhago (1908) 24 p.
- ★フィンランド
1. Vojaĝado en Finnlando (1915) 64 p.
2. Olimpa Sporto en Finnlando (1926) 24 p.
3. Vintra Sporto en Finnlando (1926) 32 p.
- ★スエーデン
1. Stockholm (1911).
2. Ekskurso en Svedujo N-ro 1. (1910)
- ★ポーランド
1. Pollando & Gdansk (1927) 127 p.
2. Krakow (1912) 38 p.
3. Kutna Hora (1913) 5 p.
4. *Pol-pomeranio (1932) 128 p.

注意：*印のものは案内記でないが地理關係書故序でに挿入した。

I · N · T · E · R · V · J · U · O



..... Kun Prof. Ken Nomura

R「エスペラントは何時頃からお始めですか。」

N「さあもうかれこれ十年位も前でせうか。この教室の主任教授吉川岩喜先生——先生はこの頃おやめの様ですがもとは熱心なエス語黨でした。先生の息子さんもやつてをられる筈です——から英語でかいたエス語文法一覽表の様なものを戴いてからボツボツやり始めたものです。」

R「エス語についてお知りになつたのは。」

N「明治卅年時代で黑板博士がさかんに宣傳されてゐた頃のことです。」

R「お嬢さんのお名前が確かエス語の minejo——鑛山——からとつてミネヨさんとおつしやると伺ひましたが。」

N「そうです。一番下で今年五つの娘です。漢字では峯代と書きます。」

R「峯代さん——やつぱり山に縁故のある字をお使ひですね。」

N「名前といへば今年佛英和を出た長女にも變つた名前をつけましてね。ハナエ・アーキアンといふのです。8月7日生れでハナエとし一番始めの子なので地質學の archæan——始生代——をとつて片假名でアーキアンとつけたのです。」

R「珍しいお名前ですね。そしてエとアの間には點があるのですか。」

N「そうです。戸籍簿もそうなつてゐます。」

四月某日の晝下り。「都の西北」早稻田大學理工學部採鑛冶金科教室の一隅。西日のさす教授室に相對して上の様な問答をかはしてゐる主客二人。客とは云ふまでもなく本誌記者(R)。主人は教授野村堅氏(N)。瘠形で小柄の方。物腰の低いやさしい方。外交官にでもふさわしい様な方。併し自然科学者としての性格は左の手にはめられた髑髏のついた指輪が物語つてゐるし眞理に對する固い信念はエス語に對する態度によつて何はれる。春日遅々。主客の會話ははてしなくつゞく。

R「時節柄金の値が上がるばかりですから御職掌柄お忙しいことと存じます。」

N「もと採算がとれずにすてた山も途中ですてた廢坑も金が二倍半の値上りでは枯木に

花が咲いた様で皆この畑の連中は大きわざです。これなんかも 1000 分の 2 以上も金を含んでゐますから一噸時價一萬圓程に當りますか。」——といつて示された鑛石は素人眼には道端の小石と何等ちがびがないのに驚く。

R「エス語のプリント(印刷物)を學生に渡してをられる御講義は。」

N「この鑛業工學講座の中の「試金術」といふ講義なんです。聽講者は採鑛冶金と應用化學の學生が主です。私の講義は日本語でドシドシやります。ノートするには少し早すぎるでせう。そして時々プリントによつて藥品や器具の名前を説明するわけです。かういつた物の名前は大抵 internacia な形ですから別に學生は驚きません。エス語を知らなくても講義を聞くには差支へはないんですが中には熱心に辭書を買つて勉強してゐる學生もある様です。プリントは昨年始めて作りました。」

プリントは謄寫版刷で“La Praktika Tajranalizo de Oro kaj Argentio”といふ標題で菊倍判本文43頁(圖版二葉入)のもの。その中改訂して活版印刷にされる由。

猶同教授は「NM 式萬能携帶用瓦斯分析裝置」「NM 式瓦斯分析用ピュレット」「NM 式瓦斯分析用ピベット」等を考案されてゐるがこれらの説明書にはエス語で見出しをつけてをられる。その外先年來苦心御研究の結果完成した論文はスツカリエス譯が完成してゐるがいづれその中に印刷になり發表されることと思ふ。それがでたら世界的に大きな反響をよぶことと我々は大いに期待してゐる。

R「先生の御趣味は髑髏の御蒐集ですか。」

N「まあ大したものぢやありませんが部屋を髑髏庵とよび髑髏を刻んだ表札やら灰皿やらならべてゐます。本物の髑髏も一時かざりましたが皆嫌がるので石膏の模型にかへました。自分で集めなくてもこの頃では知人がいるんなものをくれます。一度近い中にお目にかけたいと思ひます。」

「ぜひ見せていたゞきませう」と返事したものと、思ひだしてもゾツとする五月雨ふる頃は不氣味だしやはり怪談物のはやる夏の晩ならおつかなくなくてよいかと考へながら大隈侯の銅像を背に校門を辭したのは夕日傾く頃であつた。(J. O.)

海外報道

ウィーンの會議はすゝむ

Wien におけるエスペラントに関する國際會議については既報の如くであるが國內の騷擾もしづまつた昨今會議の準備は着々すゝめられてゐる。

會議はオーストリーの大統領 Miklas 博士を protektanto として戴いてゐるが同博士はかつて Budapeŝto での大會の際ウィーンに Antaŭkongreso のあつた節出席されたことのある人。

特にこの會議に力癩を入れてゐる商業交通大臣 F. Stockinger 氏はスウェーデンの新聞に次の如きことを話したそうである。

「自分はエスペラントを ĉiam, ĉie kaj ĉiel に支持するものである。自分はエス語が學校特に商業學校に於て學習される様努力してゐる——その理由は現在の青年は澤山の外國語を學ぶといふ事は時間と金に餘裕がないからである。又自分はエス語が各國民間の融和に役立つものと思ふ。かるが故にこの度ウィーンへ國際會議を招待したわけである。我々はこの會議の成功を期待してゐる。どうかスウェーデンからも代表者を出席させてもらひたい」と。

又同會議の Honora Komitato の一人文部大臣 Kurt von Schuschnigg 博士は一月十九日に「エス語は青年にとつて注目すべき instruilo であり各國民の融和と了解の橋渡しとして役立つものである」とのべてゐる。

同會議には Cunard Line, Red Star Line, White Star Line, Norddeutscher Lloyd 等の世界有数の汽船會社が同會議の提灯持をしてゐるにみてもこの會議の注目されてゐることがわかる。我國から直接代表者をおくる事は不可能であるが各方面へ招待狀が發送されたから歐洲在留中の方々で出席される方があるかと思ふ。學會としては目下獨逸 Göttingen 大學に留學中の東大地質學教室の南英一氏に代表出席をお願いした。

ストックホルムの大會の準備はすゝむ

ノルニーの首都ストックホルムの同志は今夏同地にひらかれる萬國エス大會の準備に大奮になつてゐる。

夏期大學は次の如きプログラムである。
Prof. Bj. Collinner: "La vivo de la laponoj."

Universitata lektoro W. Langlet: "Vidindaĵoj en Svedlando"

Lic. R. Nordenstreng: "La sveda popolo en rasa vidpunkto".

La Amanuensoj ĉe Norda Muzeo en Stokholmo O. Bambers kaj S. O. Jansson: "Vilaĝana vivo en Svedlando"

Eksurbestro de Stokholmo C. Lindhagen: "La homo kaj la tero".

講師未定: "Historio de Stokholmo"

Mag. E. Setääl el Helsinki: "La fotografarta"

Prof. B. Migliorini el Romo: "Io pri la evolua signifo de la vortoj."

大會の狀況撮影

スウェーデンフィルム會社で大會をフィルムにおさめニュース映畫 (filmjurnalo) の一部としてこれを全國の常設館にくばることが計畫されてゐる。

大會發會式の狀況放送

大會發會式の實況を放送するため同地ラヂオ協會で協議中であるから放送の曉には大會出席不可能の者も受話器一つで發會式の狀況が手にとる様にわかるわけである。

ブラジルの官製ハガキ續刊

昨年ブラジルの遞信省から 20 枚のエス語と國語(ポルトガル語)で説明を入れた官製ハガキが發行されたことは既に報道したがその世界的反響が絶大であつたので引續き36枚の新しいエハガキが發行されることに決定した。この成功に對しては Brazila Ligo Esperantista (Av. Marechal Floriano, 212, Rio de Janeiro, Brazilo) の努力と全世界よりの激勵の手紙の後援によるものであるから各地同志より上記 Ligo 宛大いに激勵の辭をおくられたし。

北獨逸ロイド汽船會社のエス語案内書

オイローパ、ブレーメン等の巨船を擁しヨーロッパ海運界に覇をとなへるブレーメンの北ドイツロイド汽船會社(Norddeutscher Lloyd)からは最近エス文でヨーロッパ諸港遊覽案内書を發行した。同書は菊倍判 頁の色アート紙印刷の美麗なものである。大會社がこ

ういつたものでエス語に手をつけてきたのは注目すべきことである。勿論同會社ではこれ迄も營業案内書をエス語で出した事がある。

Fraus Schoofs 氏の計

K R (Konstanta Reprezentantaro de la Esperanto-Movado) の sekretario として活躍したベルギーの同志 Frans Schoofs は去る 3 月 12 日假初の病のため一生を終はられたのはまことにいたみてもあまりある。同氏はベルギーエス界の巨星にして UEA の同國 ĉefdelegito でありアントワープの Reĝa Esperanto-Grupo ("La Verda Stelo") の創立者であり會長であり Belga Esperanto-Instituto の理事長であり雑誌 Belga Esperantisto の direktoro であつた人。

1888 年 5 月 22 日生れの人で本年 47 歳といふ仕事盛りの猶春秋にとみエス界のため今後の活躍が期待されてゐた。同氏の計は實に全世界エス界にとつて何物にもかへがたい傷手であり殊にベルギーエス界にとつて大きな損失であらう。こゝに御遺族並にベルギー國の同志に謹んで哀悼の意を表す。

Esp-istoj の爲の面白い懸賞

英國の懸賞は既に報じたが今度ドイツのライン河畔の Bingen 市で考案した二つの面白い懸賞がでた。

この懸賞は 5 月 1 日から本年末迄つゞくものであつて二種類ある。

〔第一懸賞〕 Magistrato de Bingen/Rhein, Germanujo 宛で手紙又はハガキでエス語で書いた同市の prospekto を送つてもらひたい (同市について興味があるからとか訪問したいと思ふからとかいつた意味を書そへて)。と書送るだけでよい。そうすればその懸賞参加者は prospekto を送つてもらへるのであるが深山の応募者の中第五十番目にあたつた人にはラインのエハガキ 6 枚を景品としてそへ第百番目の人には 12 枚をそへ第百五十番目の人には 18 枚第百番目の人には 24 枚第百五十番目の人には Bingen 市の美術的の繪を與へる。それ以上だんだん景品を増加する。

この懸賞はドイツ、オーストリー、ダンチツヒ、ザール地方をのぞく土地の在住者は誰でも参加できる。我國からもふるつて参加されよ。エス宣傳のために。

〔第二懸賞〕 Bingen の町を訪れ少くとも

一晚宿泊し UEA の delegito s-ro F. Lowitzer, Bingen/Rhein, Schmittstrato 23 宛に通知を發し又ホテルの宿帳にエスペランチストと書きそへエス語で話すべきこと。

こういつた人の中第五十番目にあたつた人はライン酒を三罐景品としてもらへる。第七十五番目の人は 罎、第百番目の人は 6 罎第百五十番目は 11 罎と盃及紀念品をもらふ。だんだん數がふえるにしたがつて景品がふえる。

GAZETA DEMANDO

最近さかんに Heroldo de Esp. 誌が書きたてゝゐる問題はエス雑誌の整理の問題である。

Esperantistoj の通有性は poemverkemo と gazetfondfebulo と云はれる位雑誌製造熱はさかんである。一二號でつぶれる雑誌が多いがとにかくいくつもいくつもつぶれてでゝくる。最近でも La Pirato, Nia Gazeto 等がでてきた。殊に Nia Gazeto は Grenkamp 氏が主筆で中々面白い編輯振であるので Heroldo にとつて好敵手であらう。

勿論十四年もつぶれてゐる Heroldo の老舗はその聲價に於て貧乏ゆるぎもしない筈だが何分エスペランチストのフトコロ勘定が例の tutmonda ekonomia krizo のため大分いためられてゐるので高い週刊の Heroldo をやめて月刊の Nia Gazeto でもとろうかといふ風なことになるのもこまりものである。

そんな加減でか Heroldo ではこの頃ヤツキとなつてエス界の雑誌の整理問題少くとも oficiala internacia organo を確立せよと叫んでゐる。Reorganizo 問題でエス運動は劃一されたがエス雑誌界は混沌たるものである。これもすべからず劃一しろといふのが Heroldo の云ひ分である。そして Heroldo ののぞむ所は UEA の Esperanto 誌と Heroldo とをうつて一丸としたものにしたいといふ意向であるらしい。

そして同誌ではさかんにこの問題で輿論をあふつてゐる。(SAT の Sennaciulo 誌は横槍を入れてヒヤかしてゐる)

しかしこれに對し UEA がとにかくその弗箱とも云ふべき Esperanto 誌を廢刊することにオイソレと同意するかどうか疑問である。

その上 Heroldo 誌も oficialigi すれば今の様なキビキビした編輯振もできなくて却つてその特色をころすこにとりはしないかと心配される。

ミラノの見本市の Esp-Stando

イタリアにおける最も大きな国際見本市たるミラノの見本市に於ては4月12—24日の開期に於て732號の stando をエスペラントの materialoj の展覧場として貸與した。

この成功は国際見本市聯盟(書記長は Komandoro Majnoni 氏)の理解ある支持によることが多い。猶又これにはミラノにある全伊國エス團體たる Itala Esperanto-Centro の努力によるものである。

南アジアに緑化運動

昨年12月15日東京(註)の Tonkina Esp-Grupo の總會があつた。印度支那大學高等農林學校長 Lan 技師の司會の下に行はれた。書記の創立以來の事業報告の後34年度 konsilantoj の選出あり。Lan 氏、Guérineau 氏、Brenachot 夫人再選。Brenachot 氏は副會頭に Thanh 氏は書記に任命された。又 Thanh 氏が UEA の delegito, Kinh 氏が vicdelegito に夫々選出された。

最近この會から“Bulteno de Tonkina Esp-Grupo”なる機關誌も發行された。

安南語でかいた最初の教科書は H. B. Duong によつて著され1932年九月發行された。16×24 cm. 60頁のもの。1933年九月には第二番目の教科書として B. N. Dynh 氏の“Hoc thê-gioi-ngu”が發行された。12×22 cm. 250頁。

まだ esp-anama 及 anama-esp. のどちらも辭書がでゝゐない。河内(註)に於ては二つの大書店がエス語の書籍を賣つてゐる。

目下 UEA の delegitoj は Tonkin, Hanoi, Vinh, Bac Ninh, Haiphong, Sontay におかれてゐる。vicdelegito は Guérineau 氏(放送局長)である。

1月21日河内に於て Atesto pri lernado の試験あり。2月2日には新しく講習を開催。昨年末は警察官に對する講習をなした。河内の印度支那中央圖書館には多數のエス書あり。Originala Verkaro もある。これはこの地の同志が同圖書館員を instigi して備へつける様にさせたものである。これらの書籍により esp-istoj がふえよう。

Esperanto—ĉu ludo

aŭ kulturfaktoro?

エスペラントゥーヨの今日の話題

Heroldo de Esperanto 誌本年第七號に英國の同志 Brian Price-Heywood が上の様な見出しでエスペラントは今日 maljunaj fraŭlinoj の distrilo か duone edukitaj personoj の pseŭdoreligio か etcerbuloj の暇つぶしの副業の様なものになつてゐて serioza kulturfakoro として扱はれてゐないのはなげかはしいと齒に衣させぬ侃々諤々の論をはいた。

それが大きな反響をよんで賛成と反對の議論がとびだしてきて喧々囂々大變賑かなことである。

Price 氏の論文の中には別に Ĉe-metodo について何等論じてゐるわけでないが Price 氏支持派の人々の中には Andreo Ĉe の metodo は遊戯半分にエス語を教授するので怪しからぬと憤慨し又多額の講習料をおさめさせて一講習でつまらぬ konversaciaj frazoj を教へるだけで後の面倒をみないからこれらの卒業生は既にエス語に熟達した様なつもりになつてエス語の宣傳よりもエス語を毒するとさかんにあたりちらすのがあるかと思ふと一方には Ĉe の教授振によつてエス語が大衆化されてゆくので興味を中心にして教授をやつてゆくのは Ĉe の様な人物で始めてできることであるといふ風な Ĉe 禮讚の辭をのべるものもあるといつた貌でこゝの所論戦でにぎはつてゐる。どちらも一理があるものでどちらに偏するも現實社會に於ては行はれがたい事で兩方の中道が一番よいと思はれる。

ANONCEJO

ARGENTA KUNSIDO

時間變更。第1土曜のみ後2-5時。
他の土曜は後7-10時。

.....銀座明治製菓二階.....

エスペラント文學研究會 五月例會.....

時—5月20日(日曜)午後7時より
所—本郷區駒込動坂町326露木方にて

.....一般來聴歡迎.....

第 22 回日本エスペラント大會記

本誌記者の参加記

關門海峡をこえて九國の地に一步を印した時分からポツリポツリ降りかけた雨を車窓にながめながら七年前の福岡大會と長崎の postkongreso の憶ひ出を胸にえがきながら西下すること十數時間途中數名の同志と同車愉快に語りながら長崎驛頭についたのは 31 日の午後 3 時 17 分であつた。驛頭には同地の同志數名が綠星旗を翻がへして出迎へてくれた。春雨の中を合宿の千代乃館にむかふもの夫々の宿舎へひきとるもの。同地の同志は雨の中を會場の設備や同志の出迎へに東奔西走されたのは感謝にたえなかつた。一汽車毎に各地からの同志の數がふえてゆく。合宿の夜は Verda Atmosfero につままれる。

第一日 (4 月 1 日)

前日のラジオの天氣豫報を裏切つて「天氣晴朗なれども風高し」といつた位のめぐまれた上々の大會日和である。會場長崎會館はヂンタ音楽で景氣をそへてゐる。前日いろんな事情から出席できぬ同志から参加不能の電報を數通うけとつてヤキモキしてゐた準備委員連も定刻 10 時には参加者百廿名を突破したので歡聲をあげる仕末。

開會式——10 時 40 分けたたましい爆竹の音によつて開會の幕がきつておとされた。先づ主催者たる九州エス聯盟 (KEL) を代表して江口廉氏 (福岡) が開會の辭を述べ大會會長に高原憲氏 (長崎) を推す。高原氏がたつて例の流暢なエス語で美辭麗句をならべた長崎市の紹介をかねての名演説に滿場水をうつた様な靜肅ぶり。ついで會長の推薦により滿場にはかり議長として大會準備委員長植田高三氏 (長崎) が當選。

植田氏議長として一場の挨拶をのべ江口廉 (福岡)、富松正雄 (長崎)、堀内恭二 (福岡) の三氏を書記として任命。

長崎市長の祝辭 (神田社會課長代讀)。長崎市の紋章が「長」の字を崩して圖案化した二重の星形でエス語の星と相似たる點等をのべかつて市青年團の機關誌「長崎の青年」にエス語欄をつくつた事等をのべエス語の發展のため援助をおしまぬ旨が長々とのべられたもの

である。ついで次の諸團體及地方會の挨拶にうつつた。

財團法人日本エスペラント學會——久保貞次郎氏

エス普及會——井上照月氏

學會福岡支部——小山田行雄氏

鐵道エス聯盟——新井憲一氏

嘉徳エス會——白杵克巳氏

京都エス聯盟——穴戸圭一氏

岸和田エス會——西田亮哉氏

熊本エスグループ——山本齊氏

門司鐵道エス會——竹田氏

宮崎エス會——渡邊毅氏

名古屋ルーマ・クンシード——河合直次郎氏

名古屋エス會——上島武氏

大阪帝國大學醫學部エス會——俣野四郎氏

大阪エス會——西村正雄氏

大牟田エス會——中川年男氏

東京エス・グループ }
東京鐵道エス會 } ——萬澤まき子嬢

東京學生エス聯盟——川村信一郎氏

天津エス會——周植沈氏

長崎エス會——久米稔氏

Tagiĝo 合唱で開會式をとぢる。

財團法人日本エスペラント學會總會

議長として植田氏司會。書記久保氏。岡本書記長より事業會計の報告があり UEA の改組問題より日本各地の delegitoj 設置問題につき各地方會の協力を希望する。

豫算及び La Revuo Orinnta の編輯方針に關することについて進藤靜太郎氏から二三の質問あり 12 時 20 分閉會。

中食。(別室で Esp-istinoj の懇親會が催された。出席者は長崎 13 名、熊本 2 名、大牟田 3 名、東京 4 名の總數 22 名。S-ino 中尾の挨拶があつて會食。後自己紹介。)

紀念撮影。——會場前で (次頁寫眞參照)。

大會協議會

13 時 40 分から

1. 國際無線電話の公用語としてエス語を採用する様大會の名において關係大臣に陳情

する件（名古屋エス聯盟提出）。新井憲一氏が一通り説明の後發案者が出席不能のため來年度大會に更めて提出したき旨をのべて降壇。

2. Fondi Komitato por studi pri la enkonduko de Esp. en mezgradajn lernejojn en nia Lando kaj kolekti materialojn por la afero. (エス普及會提出)。西村光月氏より説明あり。久保氏（東京）より賛成演説あり委員は議長指命とすべしとのぶ。進藤氏（大阪）は従來の議長指命によるやり方はとかく御座なりになり勝と批難し西村氏に腹案ありやとつめより二三押問合あり結局議長指命ときまり西村光月、井上照月、進藤靜太郎、久保貞次郎、藤澤親雄、岩下順太郎、野原休一、高見和平、高原憲の諸氏指命さる。

3. 大會の名に於て功勞ある地方會へ感謝激勵の意を表したし。（嘉穂エス會提出）

野見山丹次氏登壇説明にあつたがあつさり議題を撤回し九州エス聯盟總會へうつす

味の事をのべ撤回を要求し岡本氏（東京）又既に我々はあらゆる方面で大なり小なり獻命その他をなしてをるから我エス運動に直接關係なきかゝる問題につき大會の決議により據金することの緊急事にあらざる事をのべ萬一總額の僅少なる時は却つてエス宣傳上逆効果多きことをおそれる故に西原氏の提案を支持する旨をのべ野見山氏が之に對しこの提案は實の所我々の會に於て赤化問題に關係した者があつたので我々エス運動が赤化運動と無關係なことを明示したいのでこの提案をしたとのべ進藤氏（大阪）之に對しエス運動と赤化運動と混同されるからといつてかゝる方法によつて意志表示することは方法をあやまつてゐる。かゝる方法によらずして當局の誤解をさける方法はいくらかもあるとのべた。之に對し長崎の穴村氏齋藤氏花村氏等より原案支持の意見開陳あり提案者より議題を保留したしとのべたが議題の保留といふ事は従來の大會の



長崎要塞司令部檢閱濟

旨宣言してひつこめてしまつたのはあつてなかつた。

4. 愛國飛行機「エスペラント號」(或は國防獻金) 獻納の件。（嘉穂エス會提出）。

野見山丹次氏説明。西原氏（大牟田）提案の精神には賛成なるも國際運動たるエス語運動者たる我々が一國の大會の名においてかゝる事を議決することは全世界エス界に大きなsensacioをおこすことをおそれるといつた意

先例になきことで撤回して次年度大會に再提出するより外方法なき事を岡本氏よりのべたに對し浦田氏（長崎）は新例を開くも可なりとのべ原案の採否よりも手續上の問題につき種々論争あり議長の發議により他の議題の後にまはすこととなつた。

5. Pri la enkonduko de novaj vortoj "Nipponlando" kaj "Nippono" forigante ĝisnunajn "Japanujo" kaj "Japano" (エス

普及會提出)。

西村光月氏より説明あり。説明中 Nipponlando と Nippono を従來の Japanujo と Japano と併用すべしとのべたので議長より提案原文と喰ひちがひあることを注意され併用と原案をあらためることになった。この時小坂氏(東京)の謄寫版刷の反對意見書が配布され江口書記朗讀。小坂氏の反對文は肺腑をえぐる辛辣なものであつた。ついで岡本氏より原案反對の意見をのべ撤回をすゝめ川崎氏又同問題についての十數年前の大會で二度も大場嘉藤氏及内田莊一氏によつて提案され小坂氏の説明をえて撤回したることのあることをのべ原案撤回をのぞむ旨のべたので西村氏も大勢非をさとつて原案撤回に同意した。

ついで大阪エス會提出の第6議題を後まわしにして第7議題たる

7. 第23回日本エス大會を名古屋へ招待する件(名古屋エス聯盟提出)。

河合直次郎氏説明滿場異議なく可決確定した。

6. Formi specialan komisionon por prepari projekton de Kongresa Regularo, konsistantan el po du reprezentantoj de la lokoj, kiuj ĝis nun havis la kongreson aŭ la kongresan decidon ĝin okazigi en proksima jaro.

進藤靜太郎氏より説明あり。久保氏より提案者に東京の如くこれ迄大會を十數回開催したることのある地方會は一回につき二名づゝ komitatanoj をえらびうるか否かと質問し進藤氏より原案は回數の如何によらず二名づゝなりと答へた。猶委員會の構成については提案者たる大阪エス會と本大會の準備委員とに委嘱することに決定し可決された。

ついで第4議題につき議長より提案者に撤回を要求し提案者の承諾をえて撤回に決定。

かくて Tagiĝo の合唱により laborkunsido を閉ぢた。時に 16 時。

第11回九州エスペランティスト聯盟大會

野原休一氏を議長におし九州聯盟の活動方針について懇談。聯盟員外の一般大會參加者は市内を見物しながら懇親會場へむかつた。

晚餐懇親會

18時から丸山の料亭春若屋で同地の名物しつぱく料理を食ふ。食後餘興あり。舞踊家藤間金彌外數名の長崎古謠及踊があり富松正雄氏外數名の長崎の同志による「蛇踊り」あり浦田種一氏の詩吟熊本の藤瀬女史の獨唱や東京の川村信一郎氏の獨奏。宍戸氏譯の Kongreso Dancas を宍戸、進藤、川村氏等で

合唱した。其他參加者の隠し藝あり。ハンガリーの同志 Fedorčak 氏(昨年日本に來た同氏は上海天津をへて當日午後長崎へ來た)が日本支那フランスの俗謠をうたつた。十分歡をつくした散會。

第二日(4月2日)

午前中は三班にわかれて各所見物、第1班は縣立圖書館見學、キリシタン關係の書籍遺物を參觀し南蠻西教渡來時代の昔と殉教者の遺物等に懷古の思ひにふける。

第2班は長崎市内の見物。崇福寺、高島秋帆の邸趾。大浦の天主教會、諏訪神社等を巡覽。

第3班は國際産業勸光博覽會見物。

午後は三班合同してランチにて女神の檢疫所見學。同所構内の芝生に毛布をしいて博覽會からもらつた折詰辨當に舌鼓をうつ。食後所内を見學の後船にて歸還。大會大學の會場成隣會館にむかふ。

大會大學

15時半から。豫告の大島博士は御病氣のため小坂氏は會議のため出席不能。そのため新に進藤氏を加へ三氏にて講義。

1. Konservio, Kontrolo, Eksperimento

—川崎直一氏。

2. Gramatiko, Logiko, Psiko — 岡本好次氏。

3. エス運動の組織について — 進藤靜太郎氏。

夫々専門的の立場から研究をのべられた。いづれまとまつた研究として本誌その他に發表されることも思ふからこゝには一々のべぬ。

大會の夕

19時半から同所で夕食を共にする。食後長崎エス會のため時間をさき同會を今日あらしめた功勞者富松正雄氏の表彰式をなしついで淺田博士に感謝狀をおくる事。19時半から卓上演説。各地の同志のエス演説や長崎方言の紹介等あり愉快に 20 時 40 分大會の夕をとぢついで大會閉會式をなす。植田議長の挨拶について“Espero”を合唱して散會。

第三日(4月3日)

Ekskurso 一班は汽車で小濱までゆき小濱から自動車で雲仙へ。一班は自動車で直行。雲仙郵便局長の好意で同局で晝食を認め數時間自由行動地獄めぐり等をなし自動車で鳥原湊へ。そこで大牟田の同志數名と別れた。船で三角へ上陸汽車で熊本へ着。(1 時 30 分) 驛前惣進館へ投宿。同勢二十名餘り。この日

午下りから小雨がふつてきた。夜雨の市中を随意に見物。

Postkongreso

第四日 (4月4日)

午前中小雨の中を自動車に分乗。同地の同志と市観光課員の案内で熊本城から本妙寺を経て水前寺を見物。この頃より雨もはれる。同地エス會長神尾三伯氏の別邸で茶菓の饗應をうけ水前寺驛から乗車豊肥線で別府に向ふ。

途中坊中驛で下車バスで阿蘇登山をなす。噴煙蒙蒙たる噴火口の中に一段高い所があるそこへ伊藤(京都)、三宅、岡本三氏が下りて噴煙の中で寫眞をとつたりした後下山。18時

22分場中驛發別府へ。21時29分大分驛着別府の麻生下河原兩氏と大分高商の竹崎教授の御出迎をうけた。

それから別府へ直行姫野旅館に投宿。同勢十數名その中數名の者は同地の同志の案内にて市中見物。當時は丁度市制施行十周年紀念祭の日で、市中は假裝行列でねりあるくもの等多く又各地に屋臺がでゝ種々の催し物があり甚だ賑かであつた。

第五日 (4月5日)

午前中雨の中を同地同志三名の方々の案内で遊覽バスで地獄めぐりをなし午後汽車で歸る者汽船で歸る者夫々思ひ思ひの歸路につきつきぬ名残をおしみつゝ袂を分つた。

内地報道

1934年3月20日—4月26日迄に到着の分。報道は日本文で迅速にハガキへ。寫眞臺紙無きもの。返戻せず

東京 ★ Elektro-Esperanto-Grupo

去る4月6日第四回目會合を催した。小坂氏、前田氏(理研)、高岸博士その他數名の有志が集り小坂氏指導の下に高岸博士の御用意下さつた刷物 (Scienca Gazeto より抜萃) を各自手にして輪講。専門方面のものとして力も入り身につく様に感じられた。今後とも各地にて此種の會が設けられ互に電氣界を verdigi したいものと思ふ。

◆五月會合豫告—5月4日(金)午後7時より銀座明治製菓三階(適當な所に目印をおく)。

★東京學生エス聯盟常任委員會—4月14日學會にて、出席者6名、總會を6月2日に持つこと、その準備として委員總會を5月5日に行ふこと、前委員長吉井君に感謝狀を呈すること等を定めた。新委員長に塚田貞雄君當選。

★エスペラント誌讀者の會 4月22日13時半より學會樓上にて開催。出席者40名餘。理化學研究所前田勤氏が同氏のエス語報告の世界的反響その他論文のエス語による報告についての感想や同氏論文について S. Engholm 氏の批評添削振等の紹介等なかなか興味深い話をされた。ついで四年前から當地留學の中華民國の同志羅石均氏(4月24日離京歸國された)の日華エス運動の提携その他についての感想を話された。その後で岩下順太郎氏がワルソーの同志にたのんで集めたザ博士の Gimnazio 在學中の成績その他についての調査について興味深い御報告があつた。

五月講演會

1. 時日 五月二十日(日曜)午後一時より
 2. 場所 本郷元町日本エス學會樓上
 3. 講演
 - (a) 醫學界におけるエスペラントの活用
東京帝國大學教授 西成甫
醫學博士
 - (b) 其他(交渉中)
 4. 聽講隨意 費無料
- 主催 學會内「エスペラント」讀者の會

★早大エス會—新學年を迎へて有馬、三武兩幹事を中心に極めて活潑に運動を開始した。五月に入つたら初等講習を開く筈。なほ我々は學生の外に準會員を募集する。男女年齢をとはず。會費年1圓入會金50錢。會室—文學部地階。受付12—13時。

横濱 ★横濱エス協會◆例會—毎週木曜19時より伊勢佐木町有隣堂階上、3月15日足立長太郎氏“エス文學について”、4月12日水野勇、遠藤正廣兩氏及村上澤子嬢“Malriĉa en spirito”の朗讀。毎回 F. E. R の高橋氏が出席され、吾々を督勵して下さるのも意義ある嬉しい事と思ふ。◆特別例會—4月5日顧問佐々城佑氏を招聘し、講演と座談の夕を櫻木町驛前川村屋に催す。折悪しく雨にたゞられ出席者二十數名に限られたが18.5時開會。先づ Esp. で“Reforma movado”の講演があり、續いて座談的に佐々城氏が在演

當時のエス運動について有意義な話があつて 22 時盛大裡に閉會。

★**神奈川 Rond**——毎週水曜日 19 時より神奈川平川町保坂宅にて Z 讀本第三卷研究中。

★**Rondo Amikino**——毎週月曜日 19 時より中區上野町大野宅で Interrompita Kanto 研究中。最近、遠足の arango や講習會開催の幹旋等に目立つて活躍してゐる。

★**YMCA Esp.-Grupo**——毎週月曜日 18.5—20 時初講終了者に対する指導、用書 “Esp-aj Fabeloj”. 20 時より “Paroladoj de Z.” 研究。1 月 13 日開催の初等講習會は終了者 4 名を得て 3 月 12 日終了。講師は遠藤正廣氏、用書は短講。尙同會では今度上品優美な sigelmarko を造つた。希望者には一袋 (100 枚入) 15 錢にてお分ちします。直接同會宛御申込あれ。

仙臺 ★**仙臺エス會**——3 月 29 日昨夏以來讀續みけて來た Z 演説集讀了。SES の revigligo と學會支部設立に盡力された徳永正勝氏が大阪へ赴任されることになつたので突然ながら當日送別會をした。4 月 5 日フランス篇をよむ。横濱高商の同志若森忠氏の來訪あり。輪讀後氏を圍んで interparolo をなす。

★**東北學院エス會**——昨秋以來會合中止中であつたが春と共に中等講習開催に決定。準備中。

大阪 ★**大阪エスペラント會**——2 月 13 日 (定時總會)。隅谷信三氏議長に推薦さる。各委員の事務報告あり、辭任委員野村知子嬢伊藤幸一氏の補缺選舉を行ひ、高橋、多田兩嬢當選。次に黒田、村井、岡野各委員の任期満了改選を行ひ、黒崎、進藤、西村氏當選。次に第廿二回大會 O. E. S 代表の選舉を行ひ一同西村正雄氏を推薦する。進藤靜太郎氏より同大會への提出議案「日本エスペラント大會規約起草委員會設置の件」につき説明承認を求められ直に賛成總會を終る。出席者 16 名。O. E. S 新委員會は辻重倫 (講習)、多田ツヤ (通信)、高橋綾子 (文庫)、黒崎誠 (例會)、進藤靜太郎 (圖書取次、會計) の諸氏よりなる。尙西村氏は委員を辭退された。3 月 20 日 (會話會)。La Trapezo にて。“Pri la impresoj de la libroj, kiujn ni legis” で一同熱辯を振ふ。“vivstato de germanoj kaj judoj en Germanujo” に就き進藤氏 korespondado の結果を興味深く述べられ、ユダヤ人問題に就き話がはづむ。出席者 14 名。辻重倫氏司會。3 月 27 日 (例會)。Z. L. 研究。「廣島に於けるエス運動」奥村林藏氏。「東京に於ける諸會合」

川村信一郎氏の話あり。「會議は踊る」の主題歌エス譯を川村氏指導で練習、Tagiĝo 合唱、辻重倫氏司會。出席者 16 名、4 月 3 日 (例會)。Z. L. 研究。R. O. 批評。東京の高木貞一氏訪問さる。出席者 8 名。黒崎委員司會。4 月 10 日 (例會)。Espe o 合唱、Z. L. 研究。進藤靜太郎氏大會參加報告詳細に Esp. で述べられる。西村正雄氏大朝所載大會記事紹介。Tagiĝo 合唱散會。出席者 20 名。黒崎委員司會。◆大阪エスペラント會五月行事豫告——5 月 1 日 R. O 批評。5 月 8 日 Z. L. 研究。5 月 15 日會話會。(Trapezo にて) 5 月 20 日遠足會、午前八時半南海電車難波驛前集合、濱寺——天野山へ。5 月 22 日友の會。會場北區絹笠町大江ビル。

★**新星會**——◆3 月 18 日 (日) 午後 6.30 時から大阪ガスビル内喫茶部に於て第一回 Verda Parolejo を開催。出席者 22 名。當日關西方面へ旅行中であつた東京の高橋氏。はるばる福知山から大谷氏が途中吹田の鐵道の同志數名を誘ひて同伴、其の他岸和田からの同志等思ひがけない多數の Gastoj を迎へ一層賑やかさを増した。定刻司會者濱本氏の開會の挨拶に次いで兒島氏の歓迎の挨拶及び Konstanta Verda Parolejo の目的に就いて簡単な話があつた。gastoj と當地の同志が隣り合つて交互に座を占めエス語で愉快に語り合つた。閉會後一同大阪驛に至り遠來の客を見送る。V. P. は毎月一回第 3 日曜日に同喫茶部に於て開催各地同志の出席歓迎。

◆毎週土曜日午後 7 時から文藝讀本スラブ編の輪讀と新聞記事を題としてエス語の共讀 6 月から同讀本フランス編の輪讀を始む。

◇5 月 6 日 (日) 四條堰野崎村方面へ春季遠足を催す豫定多數の參加を希む。詳細は “Organo” 春季號にあり。(細川氏報)

廣島 ★**廣島エス會**——15 日未明宮島入港の Hamburg-American 社觀光團をあてにして 7 時半宮島へむけて出發。残念乍ら新聞の誤報とわかり一同落膽。日滿兩國旗の交叉された宮島ホテルのサロンで滿洲國使節より一足先にビールで一時間をすごす。紀念撮影の後歸廣。時に 19 時。(奥村氏報)

宮崎 ★**宮崎エス會**——兼ねて其來宮を待望してゐた同志川崎直一氏が長崎の大會への途中わざわざ宮崎を訪ねられたので、3 月 26 日の夜日房食堂に MES-anoj の都合のついたものだけ集つて氏を中心に gaja vespero をもつことが出來た。氏は無遠慮な署名攻めや質問に對して始終満面に笑をたゝえて色々有益な



宮崎エス會川崎直一氏歡
迎會——右より〔前列〕濱
田、山下、川崎、杉田、古
田。〔後列〕杉田、崎村、渡
邊、中村の諸氏。

お話をして下さった。氏の MES-anoj に與へられた好印象は其夜の紀念撮影と共に永久に残るであらう。(寫眞参照)◆萬障を排して多數出席する筈だった長崎での大會へは遂に nur du, sed plej eminentaj MES-anoj, S-roj Ŭatanabe k. Nakagaŭa を送った。大會委員の御期待を裏切つて一人の F-ino も送り得なかつたことは當方にやむを得ざる事情があつたにせよ誠に遺憾であつた。主催地の委員の方にこゝでお詫びを申し上げたい。◆長崎の大會の歸途 Samideanoj Macuzaŭa, Kaŭamura kaj Joŝida が相次で來宮されたので都合のつく MES-anoj 相集ひ gaja kunsido を催した。◆近來自ら esp-isto と稱し、面會を求め旅費を強請する不徳漢があつた。MES-anoj も四月三日彼の訪問を受けて Bonvenon Esperantistoj の主義に些か汚點を印せられた。各地の samideanoj にもし當方の紹介で迷惑又は被害を受けられた方があつたならばお詫びを申し上げると共に、此後此の如き不徳な (sp-isto の絶滅を期したい。彼の vizitkarto には亞細亞探檢家、織田敏雄とあつた。◆兼ねて計畫中だった第四回エスペラント初等講習會は四月十五日より開會、毎週月、火曜夜7時より文華堂書店に於て中村重利氏指導のもとに約二ヶ月の豫定で行ふこととなつた。

告 近頃中國地方を池田勝人といふ名前
前で同志に迷惑をかけてあるく人
があるそうですから御注意下さい。猶上
記織田敏雄といふ人にも御注意下さい。

兵庫縣 ヤパナ・コレスポнда・グルボ——
(兵庫縣明石郡神出)會員 50 名に達し會の統一
發展のため會則の詳細決定、役員決定のた

め臨時役員會を組織す(役員は會長委員數名
常任委員より成る)。機關誌 NI KORES-
PONDAS は 4 月より(毎月五日)發行。(岡
部氏報)

京城 ★遠足會 4 月 22 日博文寺のある彰
忠壇(?)へ遠足され大山、豊川、前川、城内、
佐藤、藤澤諸氏署名あるヨセガキをおくらの。
★普及會支部——4 月 14 日 19 時より本町三丁
目緑星館旅館部に於てザ博士第 17 回昇天祭
を舉行。13 名出席。今後のエス運動につき語
り 11 時散會。(寫眞次號)

鐵・道・と・エ・ス



長崎大會出席の鐵道關係の同志

聯盟本部 機關誌の 4 月號はザメンホフ號
として、諸種の研究及感想文を輯めたが、卷
頭言では、ザメンホフの最後の心の苦しみを
解く爲め、彼の大理想たる人類主義の爲め
に努力すべきを強調してゐる。

東京 ◆究研會毎木、フランス篇輪讀の

上更らに指導者の講義あり (25) ◆月例会 4月14日、長崎の大會に會代表として出席の萬澤嬢に大會の状況をきく。◆Stela K. 毎土、指導團の修練會、話題は“生活と酒”“自慢話”◆Nova K. 毎火、18.30—20.30 新宿の白十字で。會員外の出席も多數あり旺。◆特別研究會、ドレーゼンの國際語諸問題を讀了。譯を整理し追て何等かの方法にて刊行の豫定。◆花見のピクニーク、4月15日江戸川畔にて。◆初等講習、定期初講、4月25日より6週。毎月水金、講師松本浩太郎氏。

名古屋 ★名古屋エス聯盟◆井上氏歓迎會——4月18日19時より明治製菓階上にて名古屋鐵道局旅客係長に御榮轉の井上萬壽藏氏をむかへた事は來年に大會をひかへた名古屋にとって大きな祝福である。會するもの19名(中2名 finoj)、新井上鳥兩君の長崎 Kongreso に於ける感想談。金子氏の鋭い質問希望。井上氏の諸外國に於けるエス語の實用状況。JEI 組織變更についての説明等ありて散會。◆來年の第23回名古屋大會の第一番の申込は長崎より歸路車中より申込まれた學會岡本氏であつた。我々の門出に對し大きな精神的援助をえたことであつた。(矢崎氏報)

★名古屋エス會——4月11日19時より松阪屋裏番茶の家にて二水會開催。司會者山田弘氏。12名出席。長崎大會出席の3名より大會の様子をきき來年當市における大會の研究材料として種々意見の交換をなした。

吹田 初等講習 4月上旬より開催する。3月18日東京の高橋菊藏氏を迎へ關西各鐵道友會の同志を伴ひ Nova Stelo のクンシードを訪問。吹田に東京の Nova Kunsido の如きを持つべく協議中。

大阪 4月10日より鐵道俱樂部に浦田氏講師のもとに初等講習を開催。會期8週。毎週火、木。

福知山 友會を盛んに訪問。3月18日東京高橋菊藏氏を迎へ普及會訪問。

京都 3月18日故前會代表者長谷川朝一君の三十五日の爲め東京より高橋氏、大阪、吹田、福知山各會より數氏參集氏嚴父宅を訪問。佛前に2時間を語り合ふ。

門司 鐵道局内に先年來稀薄 esp-isto がかなりあつたが統制と前進がなかつたが聯盟顧問佐藤申一氏を迎へ、尙本部委員矢島氏公務旅行の途次數回有志を訪ねて激勵する處あり、愈々4月上旬より局内に初等講習開催の準備中。

郡山 主動者澤栗氏の熱心あり、東京リよ

矢島氏粟山嬢の訪問により氣勢あがり會結成と共に初等講習的輪讀會を3月中旬より開く。

仙臺 平野博士外遊のあとをうけて暫く沈黙の中にあつたが3月25日日本部委員松本氏來訪により一轉機を劃し活潑な運動をなす豫定。

札幌 毎週1回輪讀會開催。童話讀本讀了カルロを讀初む。會員一同元氣健闘。晝の休憩時間を利用して仁岸氏指導のもとに小初等講習開催中。(以上青木氏整理)

新聞雜誌とエス語

★社會事業研究 (大阪社會事業聯盟發行) 4月號——“Bolševa Komuno de OGPU”の和譯(藤田一雄氏譯)掲載さる。

★カルチュア (名古屋市中區カルチュア・クラブ發行) 第42號。「エスペラントと國語擁護」——矢崎富美人氏。

★人間 (名古屋市中區人生創造東海聯盟事務所發行) 第7號。——「希望するものゝ言葉」白木欽松氏。

★國際 (名古屋市中區國際プレイガイド發行) 創刊號 (3月) 每號矢崎富美人氏の「エス講座」あり。

★OHM (2月號)——Elektrilumina Entrepreno en Jap. ◆(3月號)——Progreso de Endomaj Elektroekipoj. ◆(4月號)——Elektra Veturigado sur la Ŝtatfervojoj——(すべて小坂氏譯)。

地方會機關誌

★La Verda Stelo (ミヤコエス會) 17號。

★La Bulteno de KEA (神戸) 4號。

★Bulteno de HER (平安エス會) (maŝinskribita)

★La Voĉo (臨大エス會) 創刊號。(44頁の大冊。内容充實。特に佛教關係の記事多く又佛教術語集もよろこばしい試みである。同會の創立時代よりの小史もよい企て。)

★La Nova Sento (福岡高校エス會) 創刊號。(創作及譯譯のエス文)。

★La Sankta Tilio (龍谷大エス會) 七號。(復活號) (42頁の大冊。佛教關係の記事のみ。エス文多く。仲々内容のシツカリしたものが多し)。

★Verda Haveno (横濱) 13號。

★FER (東京鐵道) 4月號。

★La Norda Kruco (渡邊氏個人誌) 7號。

★MER (盛岡) 3號。

★Songō (ソングヤンタ・ロンド) 2號。

★Semanto (宮崎) 4 號。

★エスペラントの友 (友の會) 4 號。

街頭のエス語

★京城府明治町二丁目八十二番地陽光堂合資會社(製藥業)に今度同志城内忠一郎氏が入社されたのを機に製品にエス語レッテルを使用されることになった。その手始めとして“Striknin-Nitrato (injekto-solvaĵo)”が賣出された。

個人消息

★古くからの同志京城帝大教授長谷川理衛氏は故淺田榮次氏二女裕子嬢と4月11日華燭の奠をあげられた。

★京大助教授八木日出雄氏は今回岡山醫大教授(産婦人科)に御榮轉赴任された。長く京都にあつて緑化運動につくされた同氏が新に岡山をverdigiされるため同地の同志と協力されるであらう。新住居は岡山市内山下93。(電話3897)

★學會評議員伊藤己酉三氏は4月5日伊藤榮子嬢と御結婚新居は東京市澁橋區西大久保3の94。

★福岡における熱心な同志理學博士伊藤徳之助氏は今回九州帝國大學教授に陞進された。

★Espero及Tagigoのレコードの伴奏をされた藥學博士塚本越夫氏は今回金澤醫科大學附屬醫院藥局長になられた。新住居は金澤市百百女木町79。

★元長崎醫大教授淺田一博士は今回東京女子醫專教授となられ東京市澁谷區南平臺町12に移轉さる。

★學會評議員城戸崎益敏氏は安田保險を退社され大和田銀行大阪支店に勤務さるゝ事になり四月下旬東京をさられることとなつた。猶同氏は病氣御保養のためしばらく別府にて療養さるゝ由。

前號重要正誤

頁	欄	行	誤	正
98		26	ricevo	akcepto
99		11	Germana	Greka
105		-15	POETO	PETO
107	右	11	工學	理學
117	(中央寫眞説明)		同夫人	中尾夫人

[年鑑訂正] 横濱エスペラント協會委員長飯田龜代司氏住所移轉につき訂正。(新住所: 横濱市鶴見區芦穂崎小學校)。

函館の同志御見舞

前號本誌校了の際函館市の大火につき承知致し驚いた次第であつたが其後の詳報にて殆んど同市の大部分が焦土と化したことを知り近來稀にみる災害であるので本會では早速同地における本會會員及エス愛讀者(愛讀者カードにより)の各位に對し御見舞狀を差上げ猶關東大震災の御見舞に準じ次の如く本誌及書籍を御寄贈申上げる事を決定した。

學會々員へは: La Revuo Orienta 1933年及34年既刊分、新撰エス和辭典、文藝讀本スラヴ篇。

エス誌讀者へ: 「エス」誌創刊以來既刊一揃へ、新撰エス和辭典、スラヴ篇。

財團法人 日本エスペラント學會

ANONCEJO

KANDA KUNSIDO 出席歓迎
毎金曜 19-22 時

神田駿河臺下明治製菓2階.....
.....會話、通譯の練習、演説及研究

創立滿一週年紀念の夕 5月4日19時。
祝辭、講演等あり.....奮つて出席されよ

先般中華民國福建省泉州世界語學會平民中學校復興義捐金募集に際し下記の方々より計金22圓及書籍若干をいただきました。こゝに厚く御禮申し上げます。

梶弘和、岩下順太郎、佐々城佑、山鹿泰治、栗山五百枝、鄧波蹄、塚田貞雄、吉井惟、川村信一郎、小久保覺三、有馬保夫、中村日出男、安井義雄、長濱博一、石黒彰彦、長谷川てる、秦希童、奥野一雄、石堂清俊、金宣淳、石橋信、高部益男、齋藤清、北定路、池田英、金某、吉田某、無名氏、Verda Studento, Suna Grupo, Klara Rondo (以上東京) 島津徳三郎(松本) 藤田繩三(高知) 脇田はるゑ(神戸) 以上四月十九日迄。猶5月末日迄右義捐金受付ますから東京市本所區平川橋五丁目三ノ二安井義雄宛御送金下さい。

注意: 直接御送附下さる方は下記へ

中華民國福建省廈門泉州泮宮、
平民中學轉、泉州世界語學會



KORESPONDA FAKO



掲載料 回 50 銭 (掲載誌呈上)、學會會員
は一回限り無料(三行迄)、二回目より 10 銭
宛(三行迄)。

[本欄に掲載の方は少くとも一回は責任を以
て必ず返信のこと。違犯者は以後掲載お断り
します]。

略號: L.=letero, P.=poŝtkarto, IP.=ilu-
strita poŝtkarto, PM.=poŝtmarko, E.=esper-
rantaĵo, F.=foto, G.=gazeto, Mnr.=monero,
dez.=deziras, krsp.=korespondi, interŝ.=inter-
ŝanĝi, bfl.=metu PM. bildoflanke, kol.=
kol.kti, kĉl.=kun ĉiulandaj (esp-istoj).

★S-ro K. C. Takin, The Capital Electricity
Works, Sie-Hwa-Men, Nanking, China; dez.
krsp. k. jap. sam. pri virina vivo, literaturo,
belartoj.

★S-ro K. Alin (23-jara), N-ro 15, Chekiang
Road, Shanghai, Ĉinio, dez. krsp. kĉl. precipe
kun japanaj gek-doj.

★東京市豊島區池袋 1 丁目 38 間宮直雄:
Songanta-Rondano, 若き komencantoj との文
通希望。

★S-ro Noboru Mizutani, ĉe Daimaru Maga-
zeno, Ŝinsaibaŝi, Osaka, Japanujo; dez. krsp.
L. IP. F. kĉl.

★「金澤、大聖寺、福井、鯖江、濱松、豊橋、
足利、桐生、伊勢崎、京都、飯能及其等地方
に於ける絹及人絹織物、生絲及人絹販賣及製
造業に關係せる同志諸君と通信を乞ふ。—
福島市荒町横田商店島崎敏一。

★S-ro Asaŭo Tamano, Nakamura, Shimo-
tsuga-gun, Tochigi-ken, Jap.; dez. interŝ. IP.
(bfl). L. GE. kĉi. 日本人とも。(precipe k.
angl. germ. pri nacia versaĵo).

★S-ro Jamada-Morio, Takamura, Hibagun,
Hiroshima-ken, Japanujo; dez. interŝ. IP.

★S-ro Ŝigeja Koizumi, 40 Kuromacunai-
mura, Hokkaido, Jap.; dez. interŝ. IP. 日本
人とも。

★全國高校在學諸兄ト文通シタシ 當方受験
生。尾道市久保町丸山土屋秀一。

★S-ro M. Souverein, Nenus laan 69, Enk-
huizen, Nederlando. Mi ricevis multajn

korespondpetojn el Japanujo, sed mi bedaŭras
ke mi ne havas tempon resp. al ĉiuj.

★全船員同志へ 連絡をとりたし通信を乞
ふ。尙神戸又は横濱市常住の同志にして船員
間の連絡の勞をとるの好意を有する人の御一
報を切望す。神戸市日本郵船氣付箱崎丸無電
徳田實。

★F-ino Tomi Sugita, Minamihirozima 3
ĉoome, Mijazaki-ŝi, Jap.; dez. krsp. kĉl.
precipe k. eksterl.

★S-ro Kiĉiŝiroo Joŝida, Kusaka, Sarerimura,
Iūafune-gun, Niigata-ken, Japanujo, (22-jara)
dez. Krsp. precipe k. fremdlandanoj.

★S-ro Seiŭ Sogen, Motomaĉi, Keijo, Koreujo;
dez. krsp. kĉl.

★S-ro Sumitaka Umezu (18-jara studento),
Siraisi, Yamaguti-si, Yamaguti-ken, Jap.;
dez. krsp. kĉl.

★海員でエス語をおやりの方は神戸市海洋氣
氣臺内田口龍雄宛御一報下さい。

★S-ro Hideo Fukumura (tajloro), Kuruma-
zaka, Ueno, Mie-ken, Jap.; dez. krsp. kĉl.
pri nia metio kaj tekniko.

★日本人と文通したし——中華民國廣東省東
莞縣博物圖書館何景炎。

★S-ro Seki-Kacumi, Niigata-ken, Kariŭa-
gun, Kitajoo-mura, Jap. (Kuracisto 27-jara),
dez. krsp. kĉl. muzikamantoj.

新撰エス和辭典補遺

品切中の所訂正再版出來

實費頒布價 8 錢送料 2 錢

國法人日本エスベラント學會

新 着
再 着

ĈIRKAŬ LA MONDON ★ KUN VERDA STELO

1930年、日本を振出しに Esp. 宣傳世界一周旅行を行つた Scherer 氏の旅行記。珍奇な各國風俗の寫眞數十個入。白熱的好評のため前回輸入のものは廣告掲載前に忽ち賣切れ。またも賣切れとならぬうち至急御注文あれ。

O. FORST DE BATTAGLIA LA MISTERO DE L' SANGO

定價上製 7 圓 30 錢並製 5 圓 20 錢のところ
今回輸入の品に限り特價上賣切並 4 圓 50 錢
(學會會員は特價の更に一割引) 送料各 15 錢

遺傳と種族の問題を扱つた興味深い貴重な科學論文の翻譯。圖表および寫眞多數入り。

並製 3 圓 30 錢・送料 4 錢 今回輸入のものに限り特價上製 4 圓並製 3 圓
上製 4 圓 50 錢・送料 15 錢 學會會員は特價の一割引。何れも送料申受く

JULIO BAGHY

PRINTEMPO EN LA AŬTUNO

取寄せても取寄せても忽ち品切れとなる原作小説。底知らずの賣行ぶりは不思議なやうだが不思議ではない。それは、本書の持つ文章の美しさ、内容のおもしろさが、讀んだ人に必ず他へ吹聴させねばおかぬ魔力を持つてゐるからだ。

—定價 1 圓 50 錢・送料 4 錢—

東京本郷
元町・一

財團
法人

日本エスペラント學會

電話小石川 5415 番
振替東京 11325 番

カーベ博士不朽の名著〔梶弘和氏註釋〕

★四六判美裝九十餘頁 定價八十錢・送料四錢

ツルゲ ネフ 散文詩

トリス、ドストエフスキ、ツルゲ、ネフ、共、近代露
西の文學の三大巨匠と稱する。ツルゲ、ネフ、共、近代露
説明の要がない。その深き人生の洞察と精緻な描寫、
痛此の野詩一篇に包みこみ、蘇り、心、我、等、カ、
等、の、心、憎、ま、る、ま、な、い、の、心、憎、ま、る、ま、な、い、の、心、
ま、な、い、の、心、憎、ま、る、ま、な、い、の、心、憎、ま、る、ま、な、い、
1909年に初版を出し、流麗なる譯文は、一讀、
手し得ざりし全譯、Version en Prose、
として出づ！遺漏なし。末には懇切なる註釋を附し、
と理解に遺漏なし。末には懇切なる註釋を附し、

五百部限定特價提供

この好機を逸する勿れ

この不朽の名著發賣を記念して五百部限り特價六十錢(送料四
錢)で提供します。賣切の節は直ちに定價に復しますから、御猶
豫なく今すぐ御申込願ひます。

エスペラントの友

一年送料共三十錢

エス運動情報の報道、刊行速報、エス新聞、
交通、習察、答等、エスピスト必携、愛
すべき月刊雑誌、申込に切手冊錢を入、
東京、町、段、二、エスペラント友、會へ！

東京市麹町九段三ノ二
振替東京七三一二五番
エスペラント研究社

「ツルゲネフ散文詩」取次ぎます。 財団法人 日本エスペラント學會 東京本郷元。一
振替東京11325番

學會取次海外雜誌

ESPERANTISTOJ,

Vi deziris havi unufoje esperantan gazeton
redaktatan de profesiaj ĵurnalistoj
VIA REVO REALIĜIS
Jen aperis la plej malkara esperanta gazeto

NIA GAZETO

monata, grandformata, okpaĝa, ilustrita,
internacia revuo

Direktoro: GEORGES AVRIL
Ĉefredaktoro: GRENKAMP-KORNFELD, LK
PREZO DE ABONO:

3 svisfrankoj por 12 numeroj, nur antaŭpaga.
Pagebla per poŝtmandato, aŭ respondkuponoj.

REDAKCIO kaj ADMINISTACIO: NIA GAZETO
29 avenue de la Victoire, NICE, Francujo
Provnumero nur kontraŭ respondkupono
de poŝto aŭ de UEA.

- HEROLDO de ESPERANTO: 一年十二圓(國際返信切手ナラ四十八枚)
- LITERATURA MONDO: 一年七圓五十錢(國際返信切手ナラ三十枚)
- SCIENCA GAZETO.....一年二圓
- LA PRAKTIKO一年四圓五十錢(國際返信切手ナラ十八枚)
- LA PIRATO 一年二圓五十錢(十枚)

取次: NIA GAZETO 一年分三圓(又は返信切手十枚)
財団法人 日 エスペラント學會
東京市本郷元町・電話小石川5415番・振替東京11325番

あなたは緑星章をつけてゐますか
まだ？ まだなら、すぐお求めなさい。

緑星章はエスペランチストが胸につけて未知の同志に対する目印とするものです。エスペラントを學ぶものは一人残らず、ぜひとも日常おつけください。

學會制定緑星章（美しい七寶製。白地に緑星、周圍はコバルト地に INTERNACIA LINGVO ESPERANTO の文字入り）

定（甲（メッキ臺・安全ピン止）乙（同背廣用）各送料共 30 錢
丙（特製純銀臺・安全ピン止）丁（同背廣用）各 50 錢；送料 2 錢
價（小型（白地に緑星だけ）安全ピン止・背廣用各送料共 30 錢

緑星ネクタイピン（七寶製小型緑星の中央に E 字）送料共 30 錢

緑星カフスポタン（七寶緑星旗型、桐箱入一組）1 圓 20 錢送料 6 錢

エスペラントのレコード Espero と Tagiĝo

山田道夫氏吹込。パルラフォン會社製。音聲極めて明瞭、
エスペランチストの會合には、ぜひ一枚なくてはなりません
— 定價 1 圓 50 錢・送料内地 40 錢・内地外 80 錢 —

エスペラントの通信に必要な

エスペラント便箋「宣傳文句入、正百枚綴」20 錢・送料 2 錢

エスペラント封緘紙「美しい封緘紙二種八十枚」20 錢・送料 2 錢

日本風景風俗エハガキ「エス文説明入、三色版四枚組」10 錢・送料 2 錢

エス譯君ケ代エハガキ「木版畫と樂譜入、二度刷」十枚送料共 15 錢

緑星旗 [ピクニック携帯用として、またエスペラント會場裝飾用として好適] 十枚送料共 15 錢

財団法人 日本エスペラント學會發行圖書

〔東京市本郷區元町1の13・電話小石川5415番・振替東京11325番〕

	最新最良の獨習書	外國語を知らぬ人の獨習講義録	語數豊富、譯語正確	書簡百科辭書の觀、四六判 370頁	エスペラント短期講習書	エスペラント中等讀本	西洋のなだかいお伽噺九篇	全3卷、各卷 0.20 (2) 合卷	脚註付、講習讀本並に獨習用に好適	エス語發音上の疑問を氷解す	重要語 720 の文例 1.00 (6) カード	見出語數 6 萬、出典明示、印刷鮮明	エスペラントの鍵	笑話廿二篇を對譯詳註し興味横溢	エス語創案者ザ博士の傳記	ザ博士の言語上の解答を蒐む	エス語のみでの世界旅行 上	黑板博士の歴史的大論文其他を収む	スピリドグイッチの新言語理論	梵語からエス譯。漢譯對照	孝經
エスペラント捷徑	上 1.00 並 0.50	0.50	上 0.80 並 0.60	1.20	0.20	0.30	0.20	0.50	0.25	0.30	1.70	印刷中	0.00	0.10	0.80	0.50	0.95 並 0.85	0.20	0.70	0.15	0.30
エスペラント講座																					
新撰エス和辭典																					
新撰エス文手紙の書方																					
エスペラント講習用書	0.50 2																				
エスペラント初等讀本	0.30 2																				
エスペラント童話讀本																					
ザメンホフ讀本																					
イソップ物語																					
エスペラント發音研究																					
エスペラント文例集																					
新撰和エス辭典																					
點字エス文法と小辭典	1.00 6																				
エスペラントやさしい讀み物																					
愛の人ザメンホフ																					
リングヴィ・レスポンドイ																					
歐羅巴親類巡り																					
國語の擁護を論じて國際語に及ぶ																					
言語學と國際語																					
佛說阿彌陀經																					
大學中庸	上 0.75 並 0.60																				

~~~~~ エスペラント對譯詳註叢書 ~~~~~

1. マテオ・ファルコネ	0.35 2	4. 代理通譯	0.40 2
2. ハイネ詩集	0.40 2	5. 愛ある處神あり	1.50 6
3. 魔法使	0.40 2	6. レイモント短篇集	0.40 2
エスペラント童話集	「エス童話讀本」の對譯脚註篇		0.60 4

~~~~~ エスペラント文藝讀本 ~~~~~

(教科書版と携帶版とあり指定乞ふ)

1. スラヴ篇	0.25 2	2. フランス篇	(近刊)
3. 沙翁篇	(近刊)		(以下續々刊行)

~~~~~ エスペラント書き日本叢書 ~~~~~

惜みなく愛は奪ふ	有島武郎の傑作	上 1.00 並 0.50	各4
ベルダ・カルト	大朝懸賞當選五十年後の社會	1.00	4
中村精男博士遺稿	原作科學論文、文學作品の翻譯等	0.70	4
綠葉集	伊井汪著原作詩と詩歌俳句等の翻譯	0.80	4
骸骨の舞踏 秋田雨雀	倫敦塔 夏目漱石	0.40 2	0.15 2
グラシヤ	霧の中 山本有三	0.20 2	0.15 2
日本民族の起源	日本刀劍鑑	0.10 2	0.15 2
エスペラント年鑑	エス運動史、地方會名簿、運動の ABC	0.20	2

——〔詳細内外エス書圖書目錄二錢切手封入お申込み次第送呈〕——

エスペラント五月號

昭和九年五月廿五日印
 昭和九年五月一日發行
（毎月一回一日發行）
 ラ・レヴォ・オ・イ・エンタ（エスペラント研究）第十五号 第五號

定價廿錢（送料二錢）

編輯印刷兼
 發行人

財團法人
 日本エスペラント學會
東京市本郷區元町一ノ二三
 右代表大井

南蠻文化の門戸で……大會記事
 えくぜるつあーろ註釋……小坂狷二
 ドイツの脱退 初等詳註)……三宅史平
 形容詞(初等文法)……久保貞次郎
 Pro か Por か……岡本好次
 文友を訪ねた話……下村芳司
 運動・娛樂(和文エス譯)……梶弘和
 ドナウの流るゝ國(ハンガリヤ)石黒修
 エスペラント理論の發展……高木弘
 詩の構成……松葉菊延
 公爵の歌……歌劇「リゴレット」から
 大會で拾つた話・質疑應答・報道欄等

全國各地書店にあり・二十錢・送料
 五厘・年二圓三十錢・見本切手十錢

エスペラント文藝讀本
 各册裝釘優美な三五判
 定價一部25錢送料2錢

1. 小坂氏編スラヴ篇 再版
 ツルゲネフ散文詩・シエンキエウヰッチ・
 トルストイ・コロレンコ・チェホフ・ブー
 シュキン・ゴーゴル・アンドレーエフ
 2. 川崎氏編フランス篇
 [散文]ドーデエ・ユーゴー・メリメ・フ
 ランス・ヴオルテール [詩]ヴエルレー
 ヌ・ボードレエル
 3. シェイクスピア悲劇篇 近刊近刊
 4. シェイクスピア喜劇篇 近刊近刊
- 以下續々刊行準備中

東京市
 本郷區
 元町一

財團
 法人

日本エスペラント學會

電話小石川五四一五番

振替東京一三三二五番